

館山自動車道
大鳥居高架橋耐震補強工事

設 計 図

【浮戸川橋】

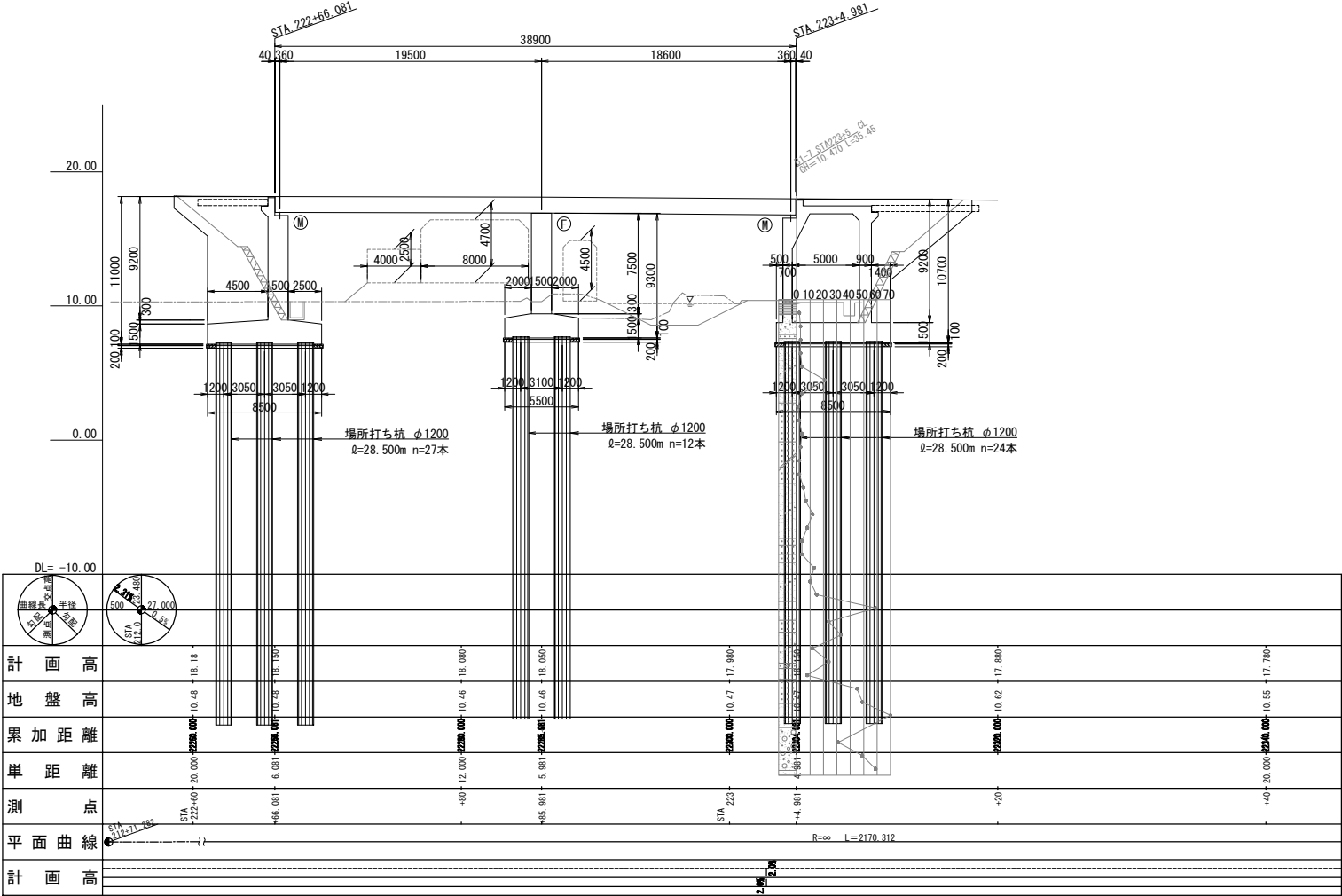
令和8年9月

東日本高速道路株式会社
関東支社市原管理事務所

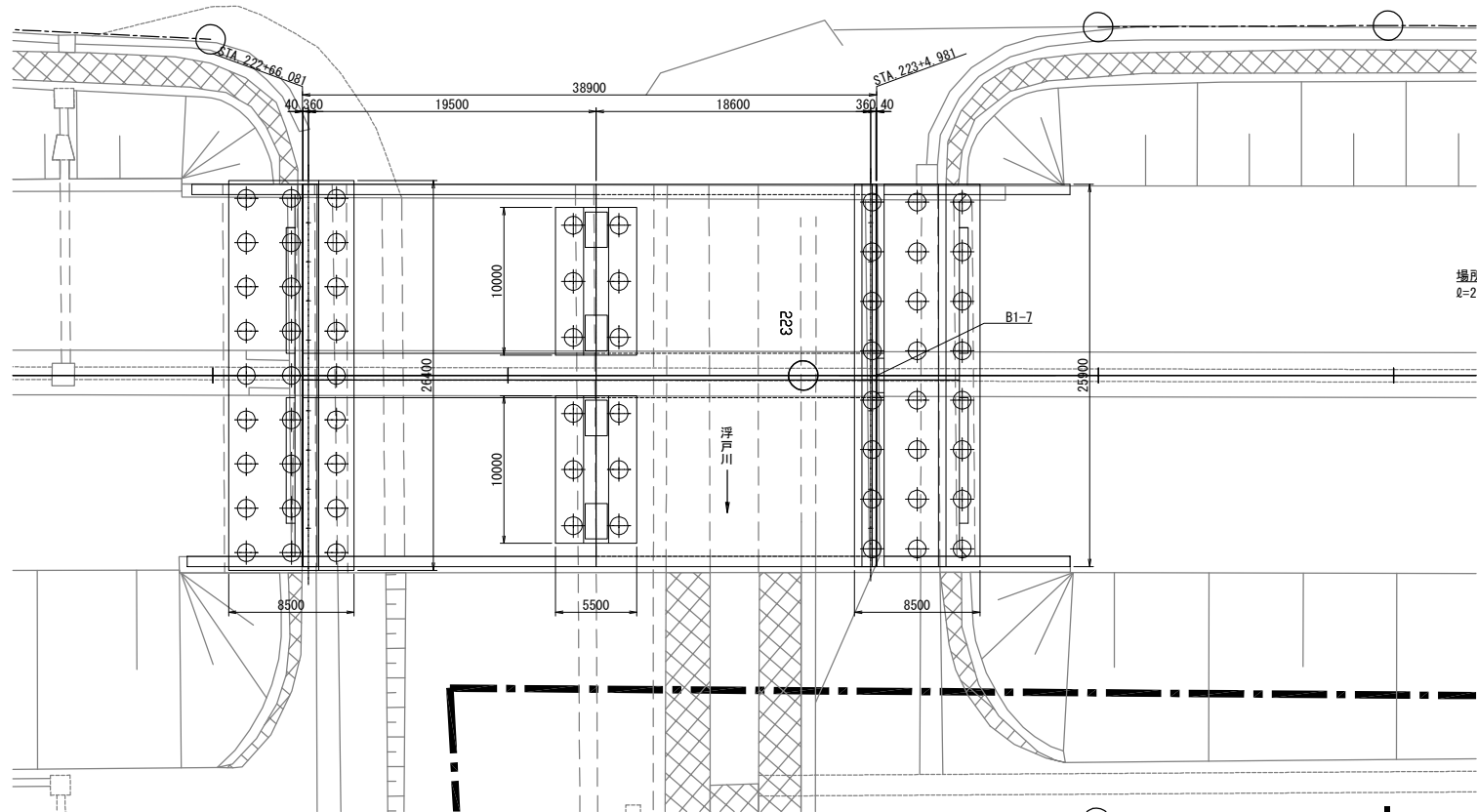
図 面 目 次

図 面 名	図 番
1 . 浮戸川橋 橋梁一般図	 1
2 . 浮戸川橋 (上り線) 耐震補強一般図	 2
3 . 浮戸川橋 (上り線) P1橋脚 RC巻立て 補強構造一般図	 3
4 . 浮戸川橋 (上り線) P1橋脚 補強配筋図	 4
5 . 浮戸川橋 (上り線) P1橋脚 構造物掘削図 特殊部C(その1~2)	 5 ~ 6
6 . 浮戸川橋 (上り線) P1橋脚 足場工図 (参考図)	 7
7 . 浮戸川橋 (上り線) A1橋台 落橋防止構造 C1(J) 構造図(その1~2)	 8 ~ 9
8 . 浮戸川橋 (上り線) A2橋台 落橋防止構造 C1(K) 構造図(その1~2)	 10 ~ 11
9 . 浮戸川橋 (上り線) 仮設防護柵工C	 12
10 . 浮戸川橋 (上り線) A1橋台 足場工図 (参考図)	 13
11 . 浮戸川橋 (上り線) A2橋台 足場工図 (参考図)	 14
12 . 浮戸川橋 (上り線) コンクリート打設計画図 (参考図) (その1~2)	 15 ~ 16
13 . 浮戸川橋 (上り線) 落橋防止資材搬入計画図 (参考図) (その1~2)	 17 ~ 18

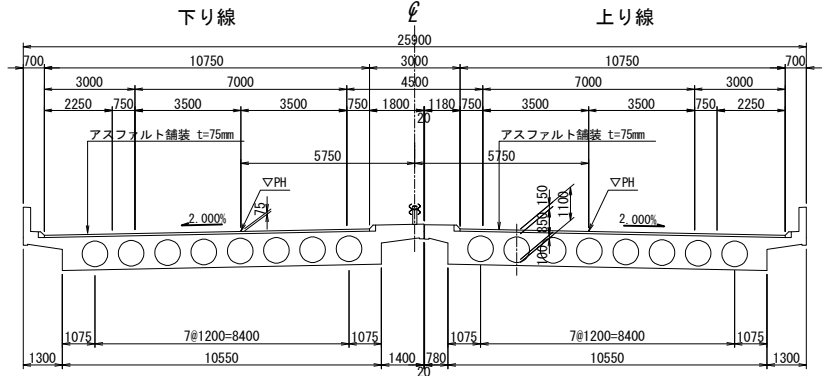
側面図 S=1:500



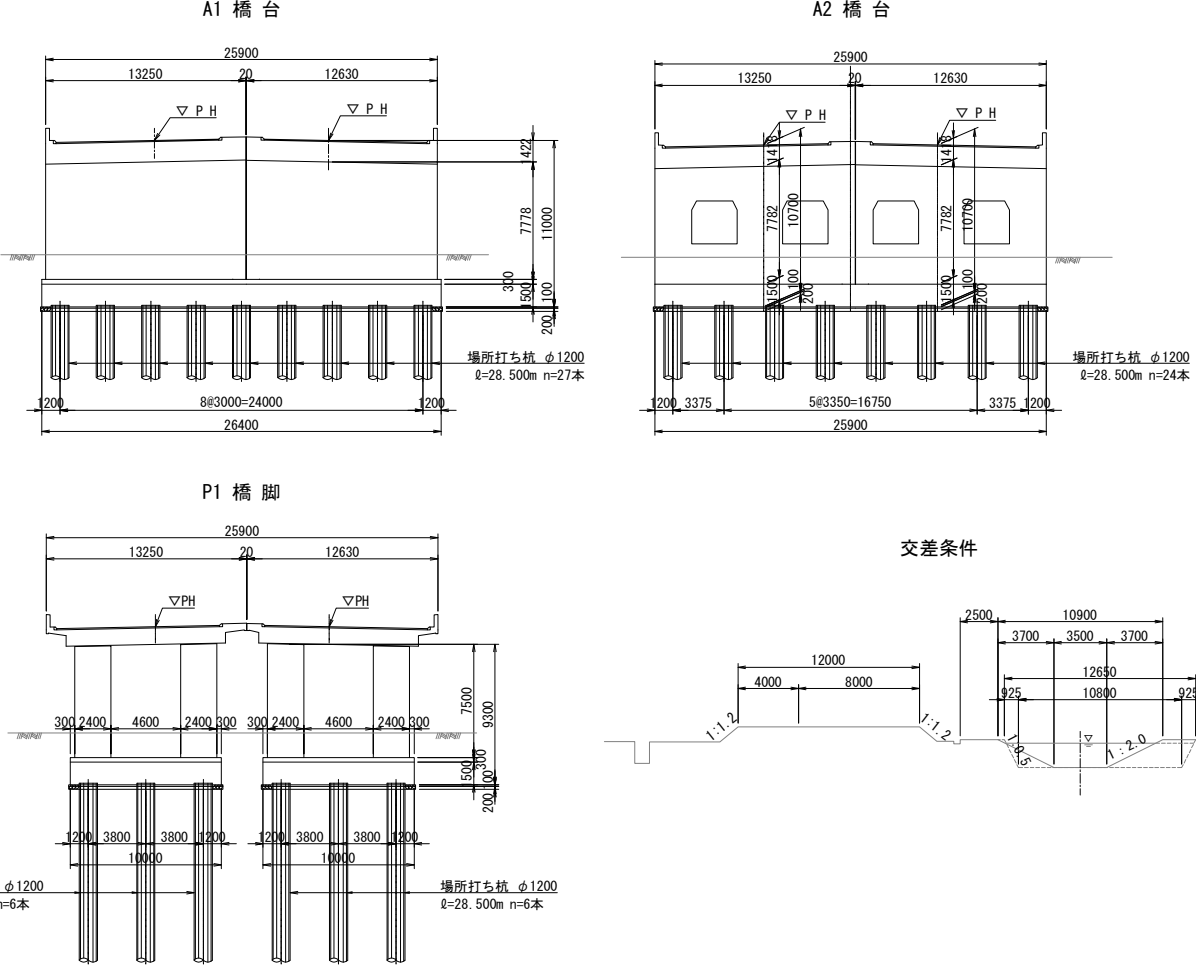
平面図 S=1:500



標準断面図 S=1:250



断面図 S=1:400

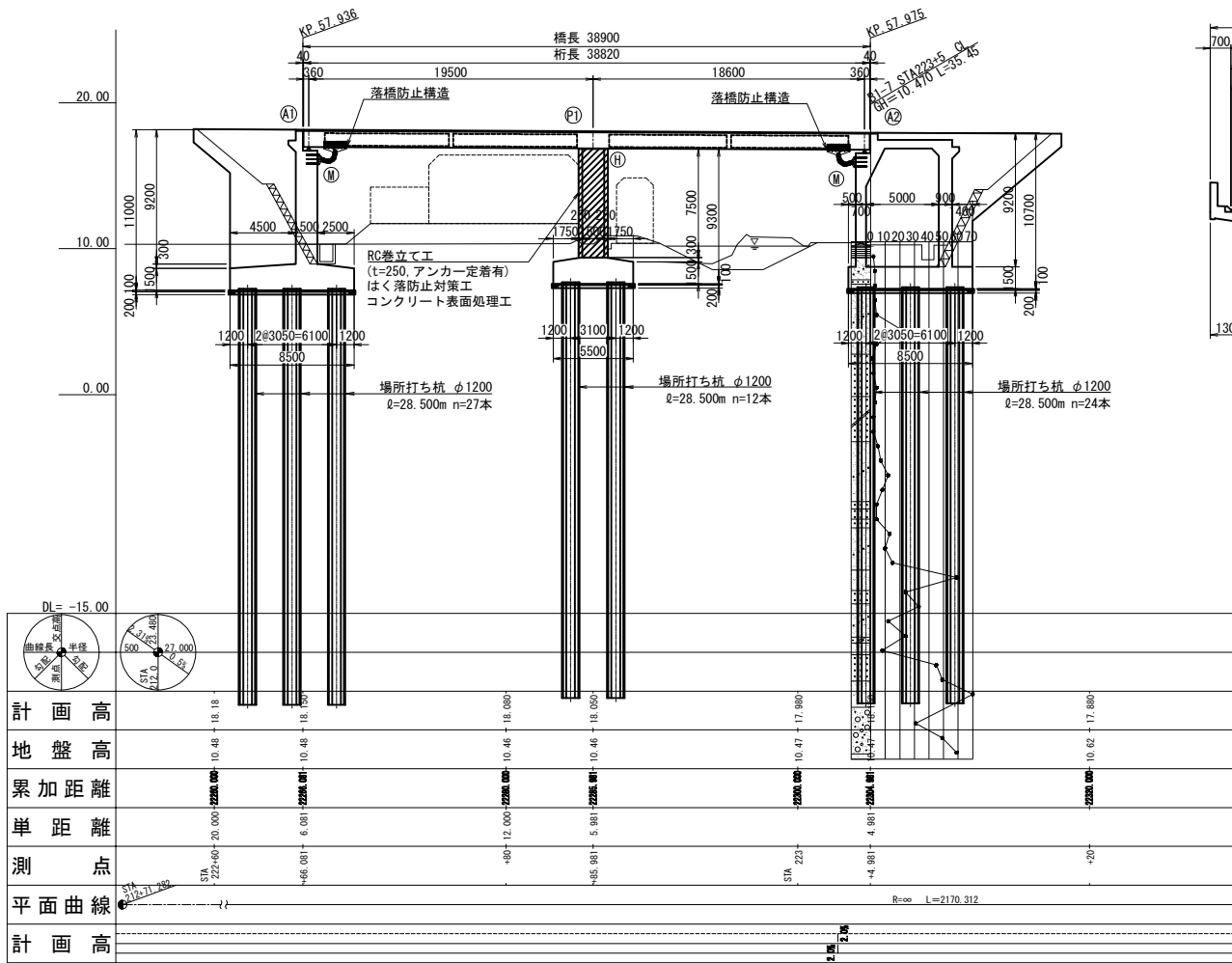


設計条件			
橋長	38.900m	桁長	38.820m
道路区分	1種2級A規格		
荷重	TL-20 TT-43		
型式	RC2径間連続中空床版		
支間	19.150m+18.600m		
有効幅員	2x10m750	斜角	90°00'00"
横断勾配	2.0% 片勾配		
縦断勾配	0.5% 直線勾配		
地震係数	Kh=1.0x1.2x1.0x0.2=0.24 Kv=0		
床版コンクリート	σck=240kg/cm2		
床版鉄筋	SD345		
適用方書	道路橋示方書 昭和55年5年		
使用材質	—		

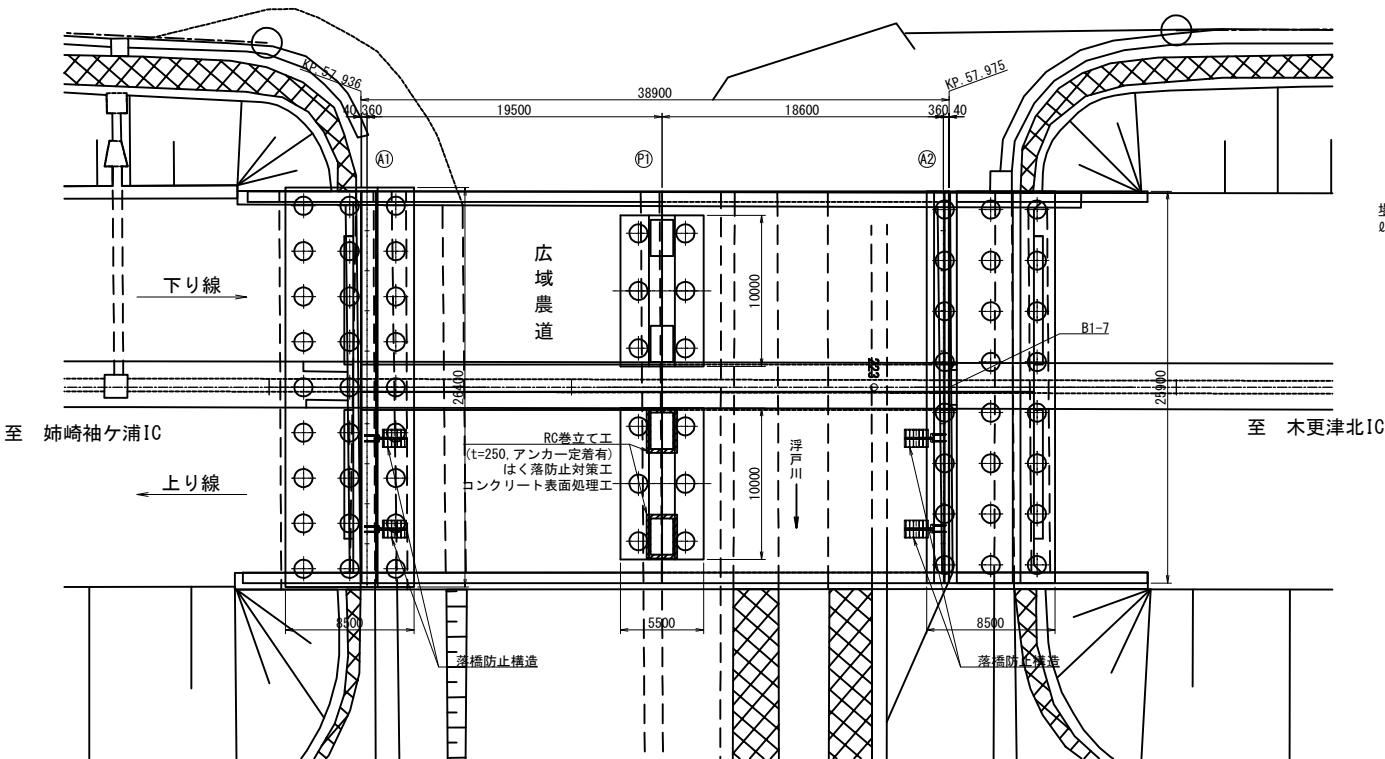
館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	浮戸川橋 橋梁一般図		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名	—		
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所		

浮戸川橋(上り線) 耐震補強一般図

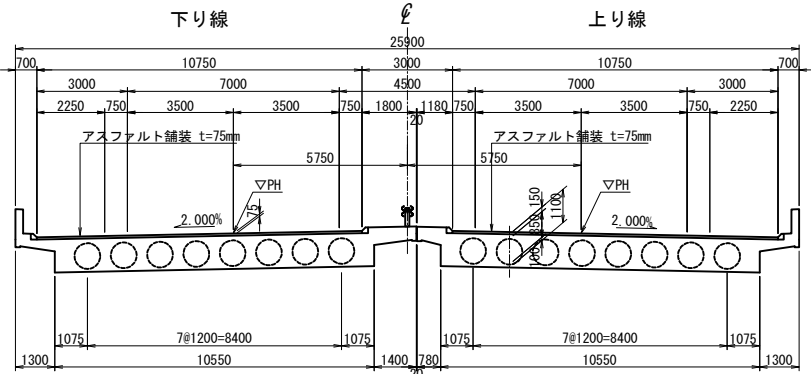
側面図 S=1:500



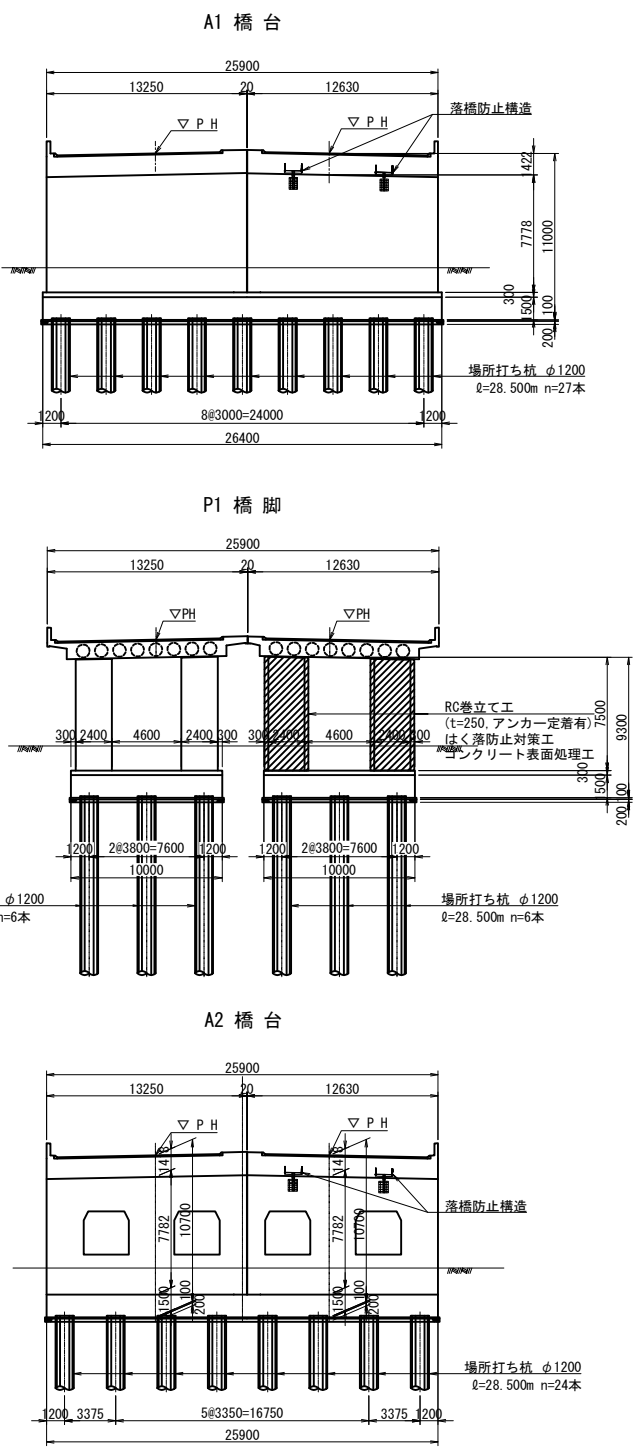
平面図 S=1:500



上部工標準断面図 S=1:250



下部工正面図 S=1:500



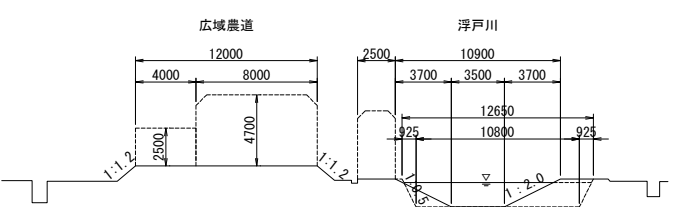
建設時設計条件

橋長	上り線	38.900m
	下り線	38.900m
支間長	上り線	19.500m + 18.600m
	下り線	19.500m + 18.600m
全幅員	上り線	12.630m
	下り線	13.250m
有効幅員	上り線	10.750m
	下り線	10.750m
上部工形式	上り線	RC2径間連続中空床版
	下り線	RC2径間連続中空床版
下部工形式	上り線	逆T式橋台1基, ラーメン式橋台1基, 二柱式橋脚1基
	下り線	逆T式橋台1基, ラーメン式橋台1基, 二柱式橋脚1基
支承形式	上り線	BP-A支承 (A1, A2), メナーゼヒンジ支承 (P1)
	下り線	BP-A支承 (A1, A2), メナーゼヒンジ支承 (P1)
活荷重		TL-20, TT-43
完成年月日		1995年(平成7年)12月
設計基準		S53道路橋示方書, S55道路橋示方書, 設計要領第二集(日本道路公団)
設計水平震度		kh=0.24
使用材料	コンクリート	σ _{ck} =240kg/cm ² (上部工及び下部工)
	鉄筋	SD35(上部工及び下部工)

今回耐震補強設計条件

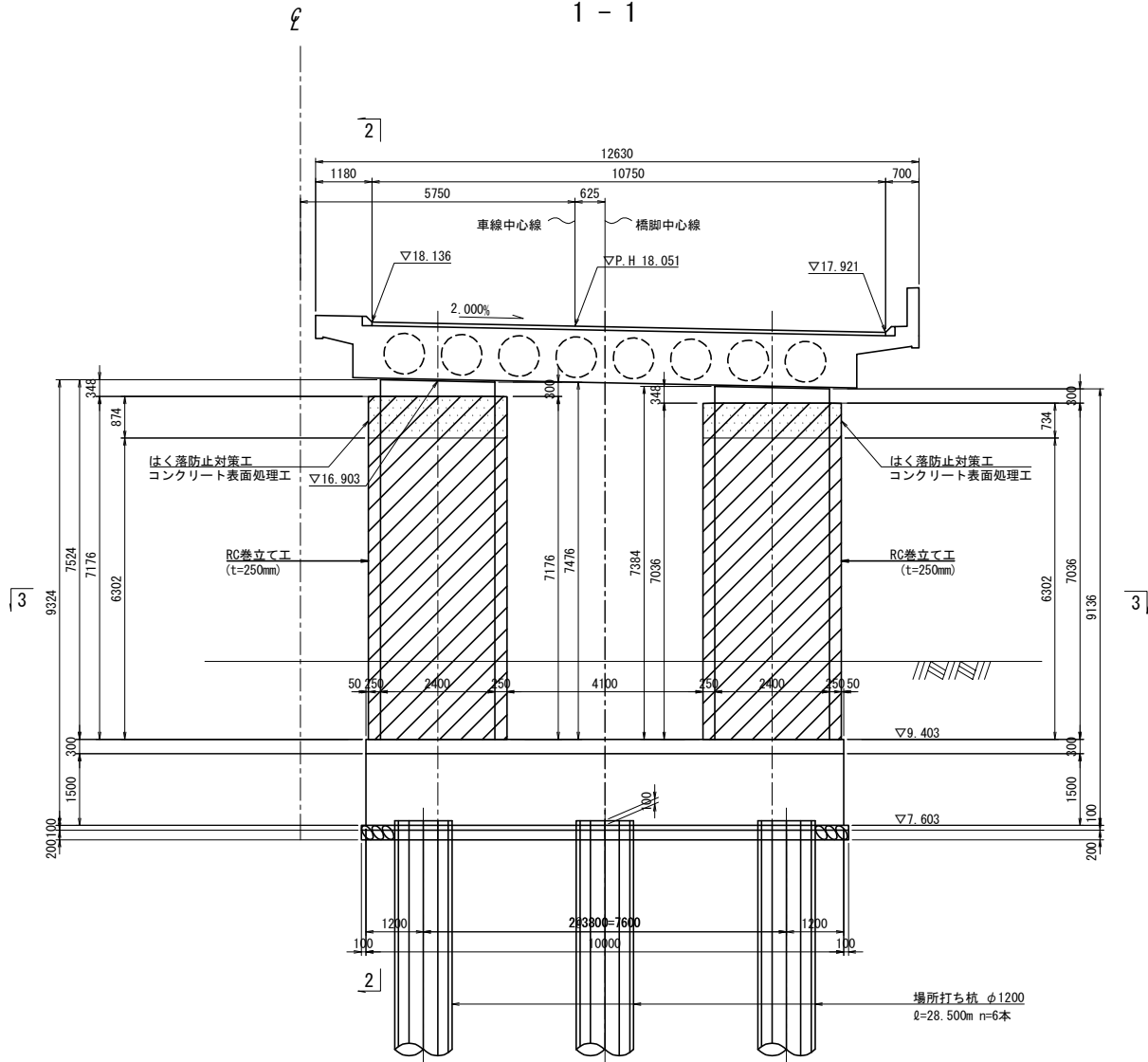
設計基準	R6設計要領 第二集 橋梁保全編
	H24道路橋示方書・同解説 IV下部構造編、H24道路橋示方書・同解説 V耐震設計編
活荷重	B活荷重
使用材料	コンクリート σ _{ck} =30N/mm ²
	鉄筋 SD345
補強内容	橋脚 RC巻立て補強
	上部工 落橋防止構造: ブロック型ゴム被覆チェーン

交差条件

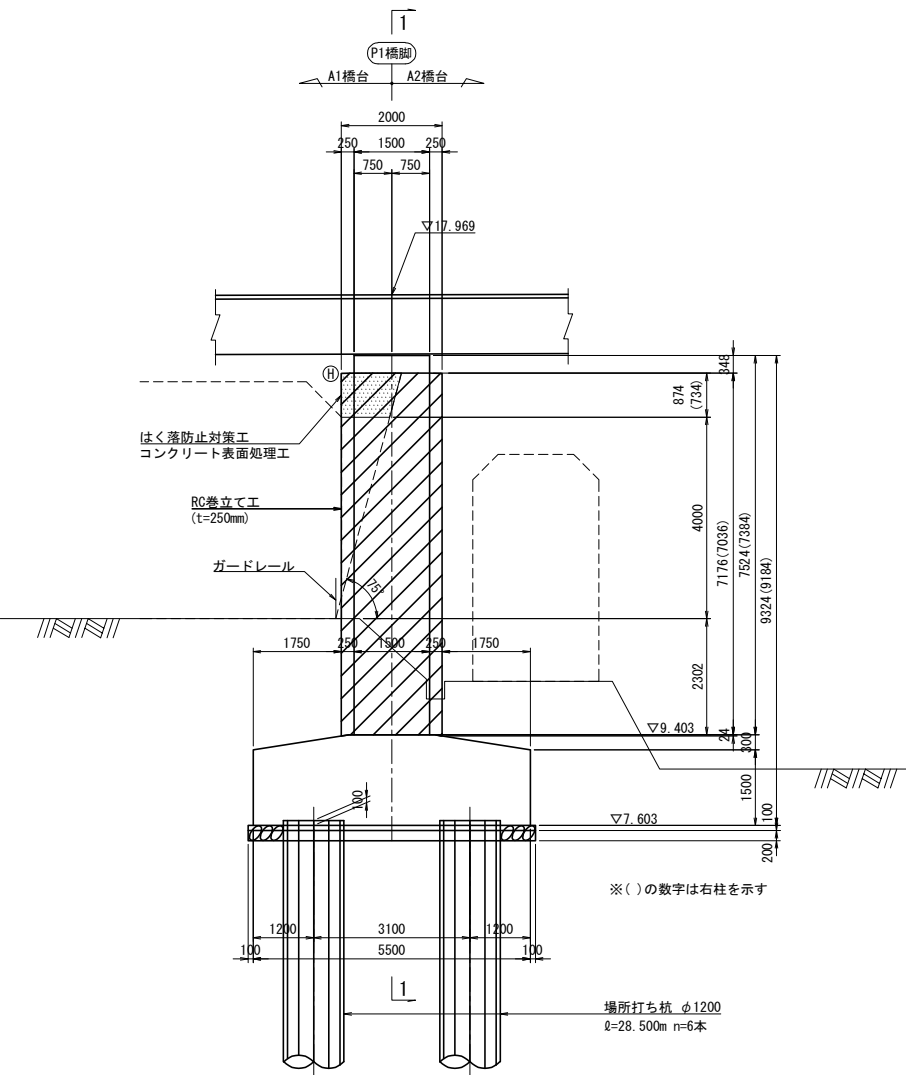


館山自動車道 大島居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	浮戸川橋(上り線) 耐震補強一般図		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所		

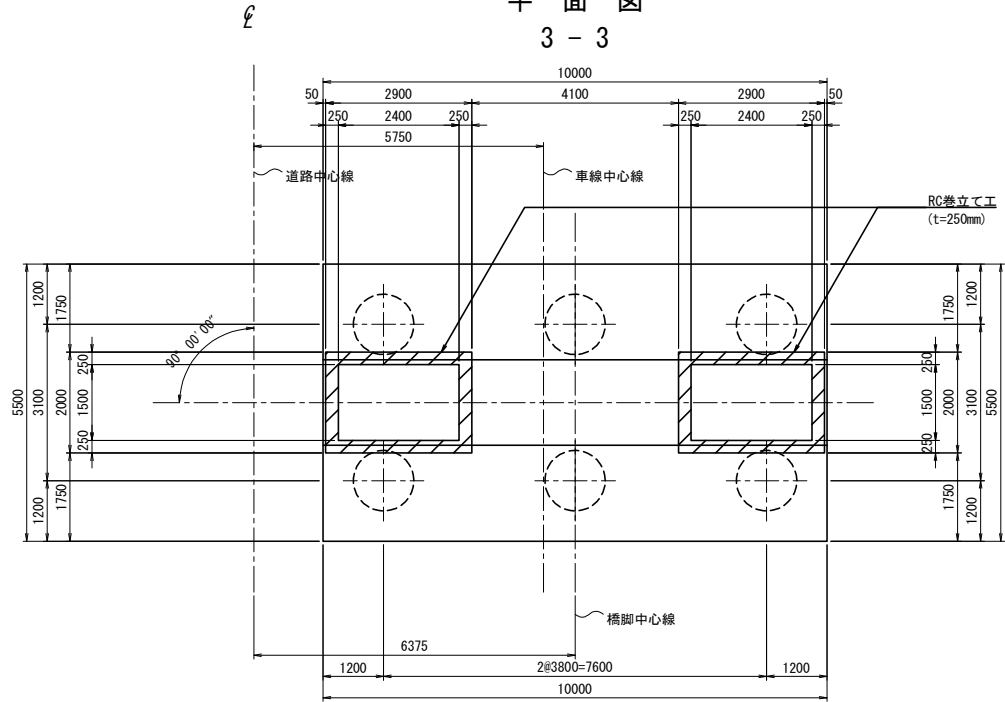
正面図
1 - 1



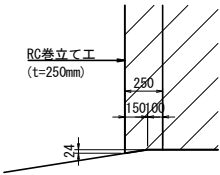
側面図
2 - 2



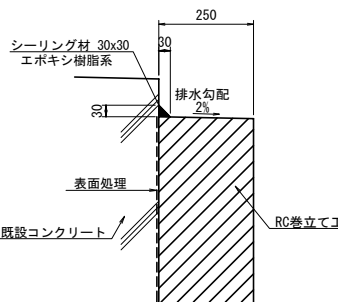
平面図
3 - 3



柱巻立て基部詳細図 S=1:50



柱巻立て天端詳細図 S=1:20



既設使用材料

柱	鉄筋	主鉄筋	SD35
	コンクリート	帯鉄筋・他	SD35 240kg/cm2

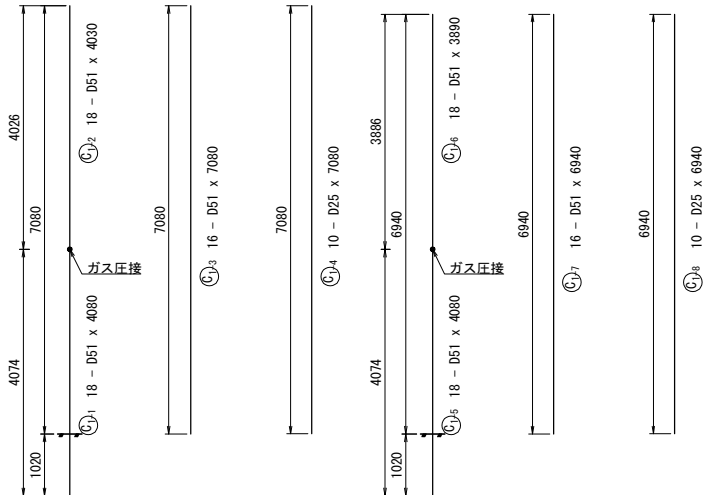
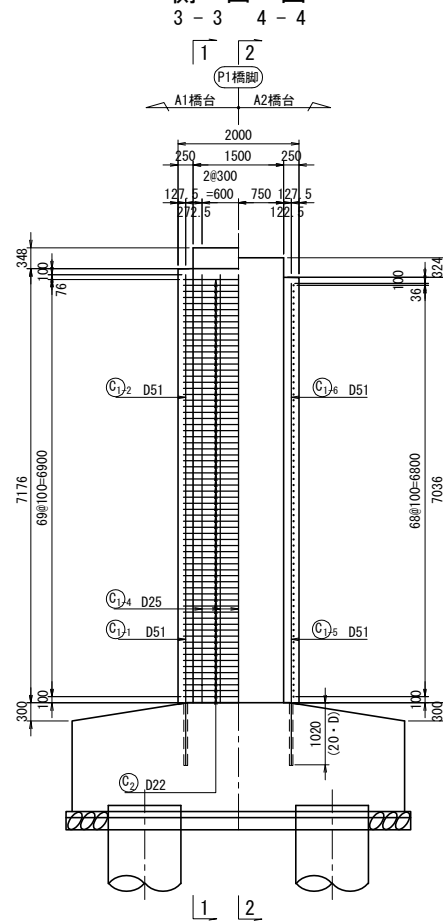
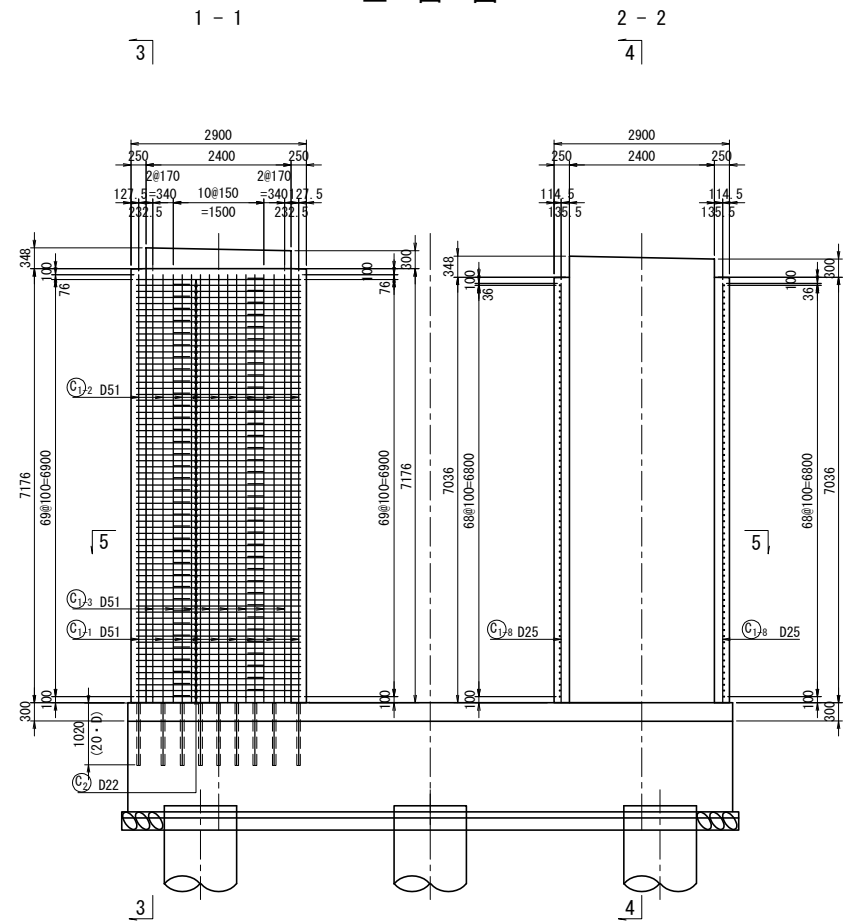
補強使用材料

柱	鉄筋	SD345
	コンクリート	30N/mm2

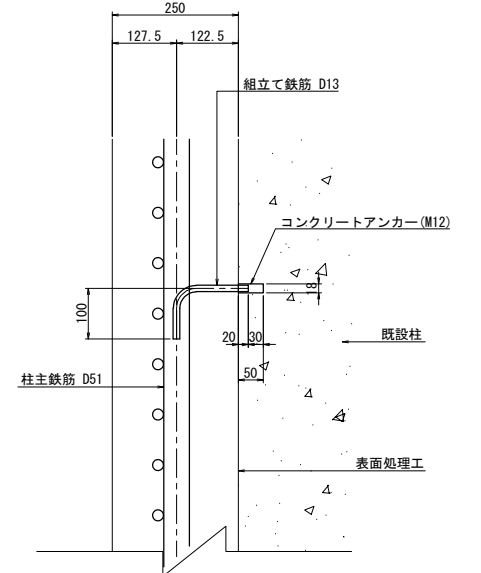
注記) 1. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
2. 工事に際しては橋脚前面等の施工範囲に埋設物がある可能性があるため、事前に調査を行ったうえで施工を行うこと。

館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	浮戸川橋(上り線) P1橋脚 RC巻立て 補強構造一般図		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

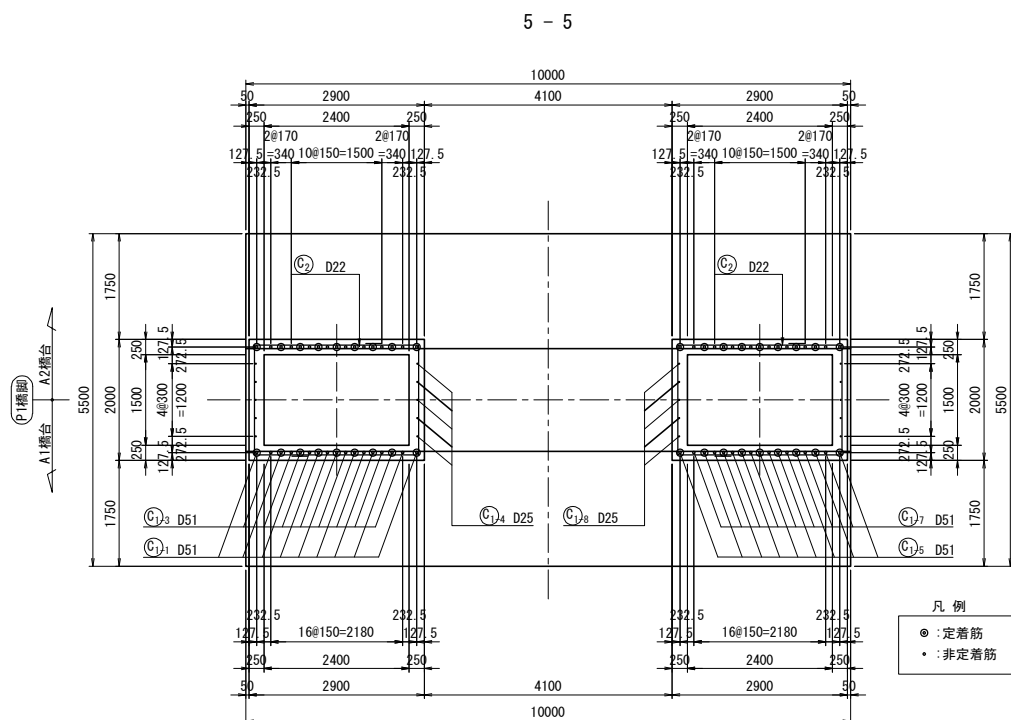
側 面 図



組立てアンカー参考図 S=1:15



平面图

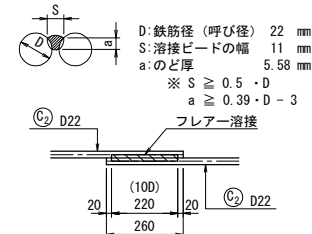


鉄筋質量表

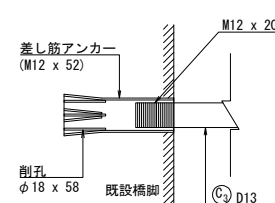
符号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	一本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C1-1	D51	4080	18	15.9	64.9	1168	● [18]
C1-2	D51	4030	18	15.9	64.1	1154	●
C1-3	D51	7080	16	15.9	112.6	1802	
C1-4	D25	7080	10	3.98	28.2	282	
C1-5	D51	4080	18	15.9	64.9	1168	● [18]
C1-6	D51	3890	18	15.9	61.9	1114	●
C1-7	D51	6940	16	15.9	110.3	1765	
C1-8	D25	6940	10	3.98	27.6	276	
C2	D22	4740	278	3.04	14.4	4003	┌ (278)
12732 kg							
T1種鉄筋 フレーア溶接 ガス圧接							
		SD345	D51	8171	kg		[36]
		SD345	D25	558	kg		
		SD345	D22	4003	kg	(278)	
合 計				12732	kg	(278)	[36]

注) []はガス圧接箇所数を示す。
()はフレア溶接箇所数を示す。

フレアー溶接詳細図



組立筋アンカー詳細図(参考図) S=1:4



鉄筋加工寸法表 曲げ加工時の減長

径	$\theta = 90^\circ$		
	R	a	ΔL
D13	39	61	17
D22	66	104	28



$\theta > 90^\circ$
 $R = 5\phi$

$\theta \leq 90^\circ$
 $R = 2.5\phi$

既設使用材料

柱	鉄筋	主鉄筋	SD35
		帯鉄筋・他	SD35
	コンクリート		240kg/cm2

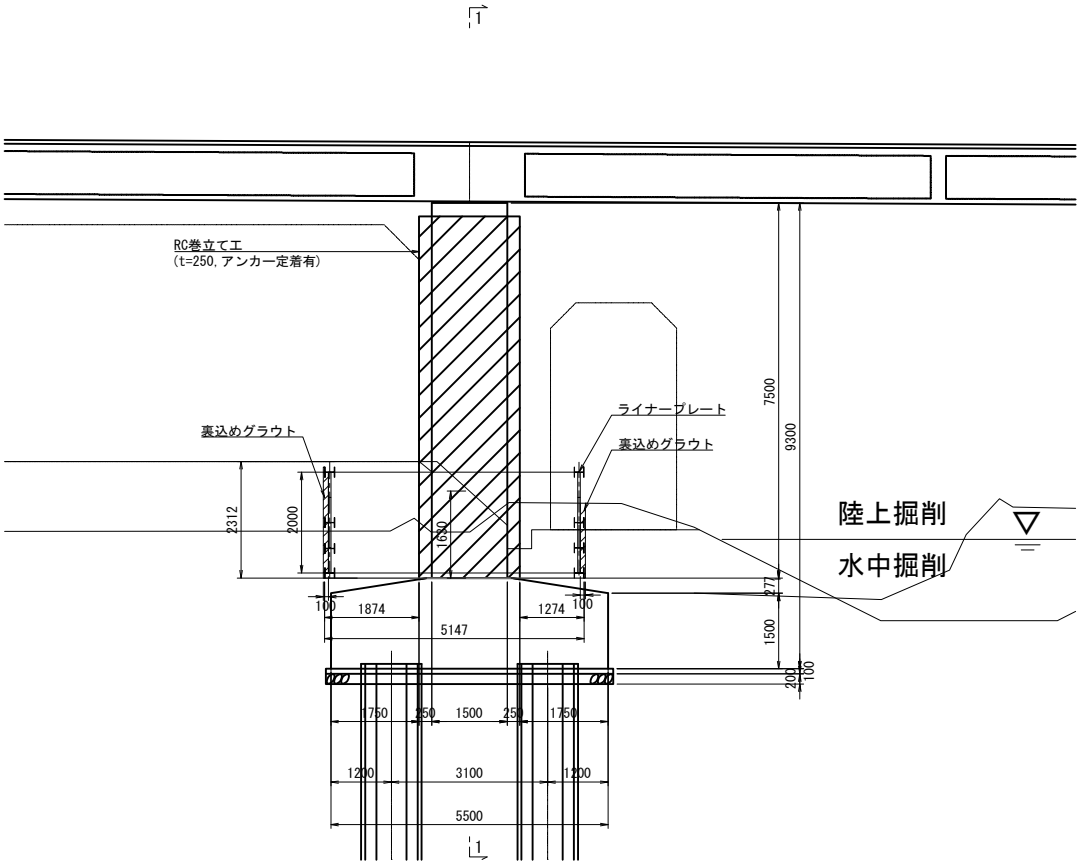
補強使用材料

柱	鉄筋	SD345
	コンクリート	30N/mm2

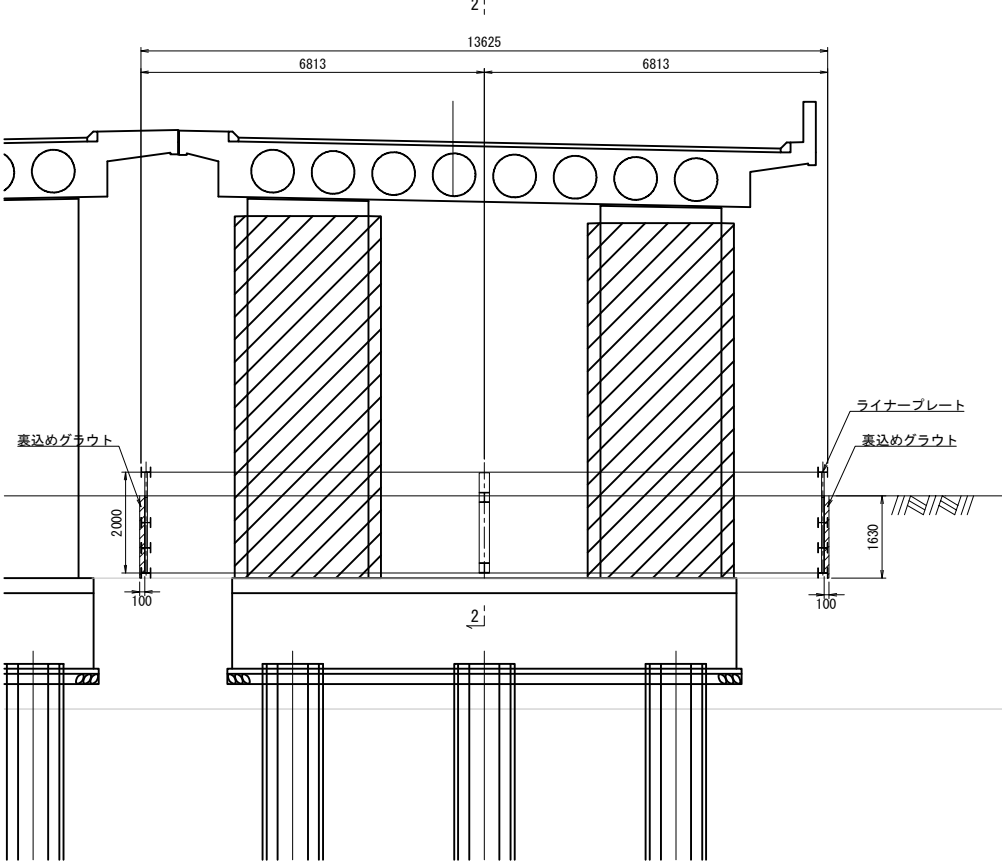
- 注1. 組立用アンカーは1本程度/m²設置すること。
2. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
3. アンカー一定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
4. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。

館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事				
図面の種類	浮戸川橋(より線) P1橋脚 補強配筋図			
縮 尺	図 示	図面番号	/	
設計会社名	株式会社 建設技術研究所			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所			

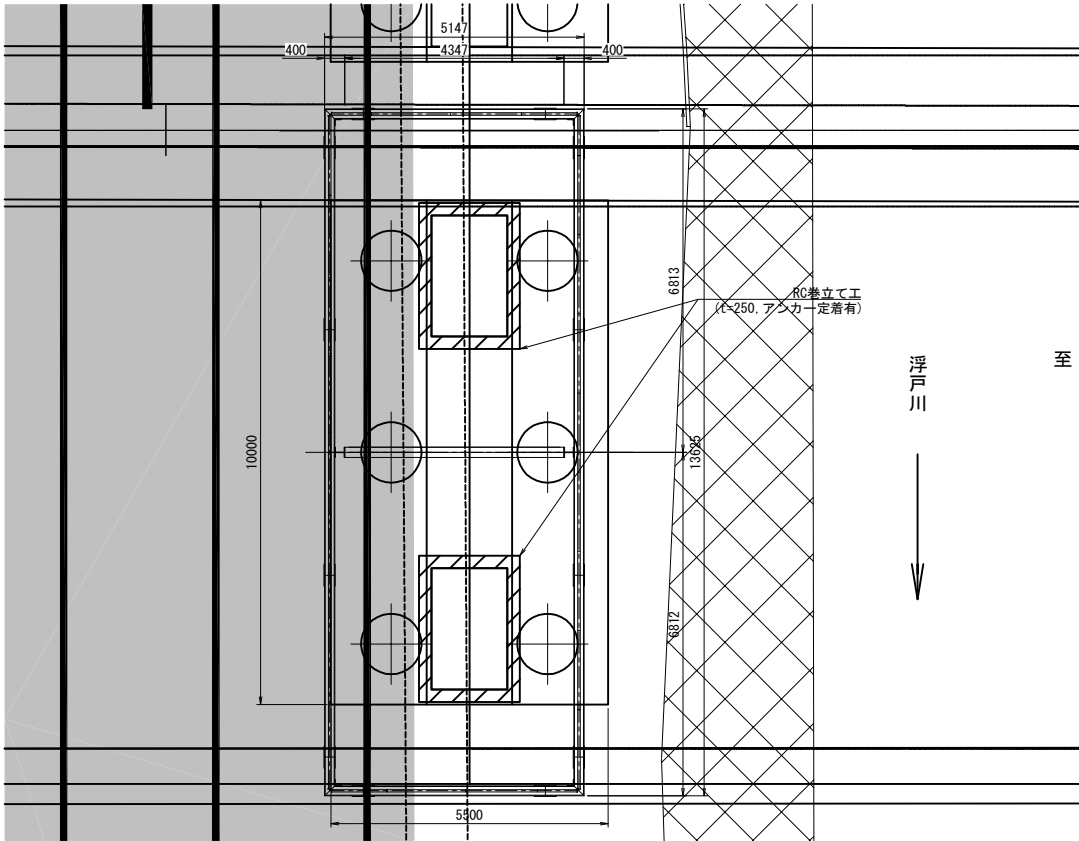
側面図
2-2



正面図
1-1



平面図



至 姉崎袖ヶ浦IC

浮戸川

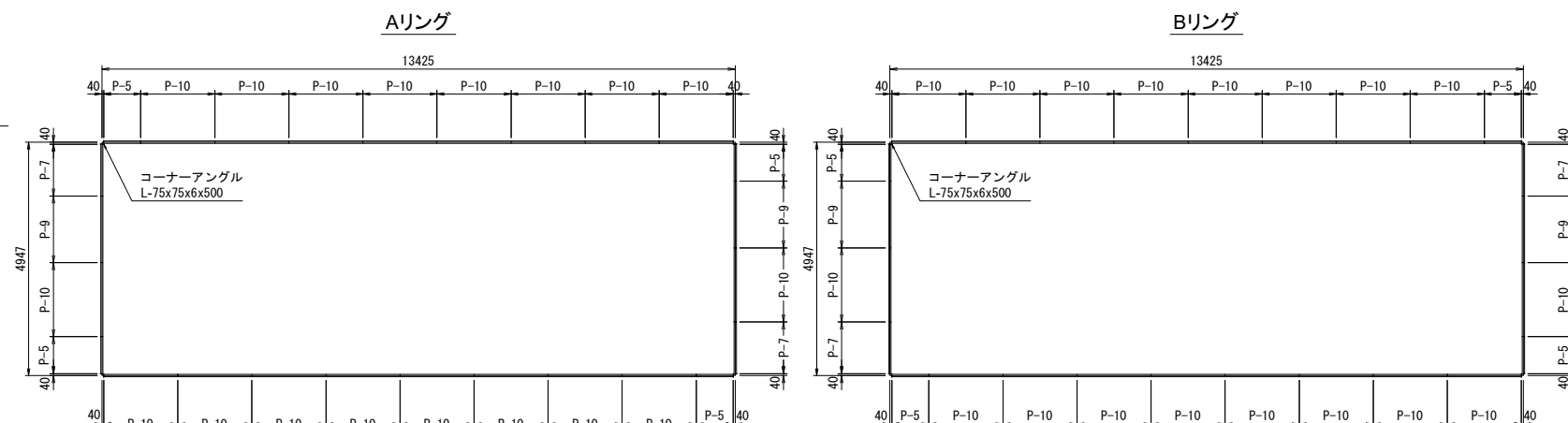
至 木更津北IC

項目		単位	数量	備考
構造物掘削	陸上部	m3	59.6	
	水中部	m3	45.1	
埋戻し		m3	97.5	

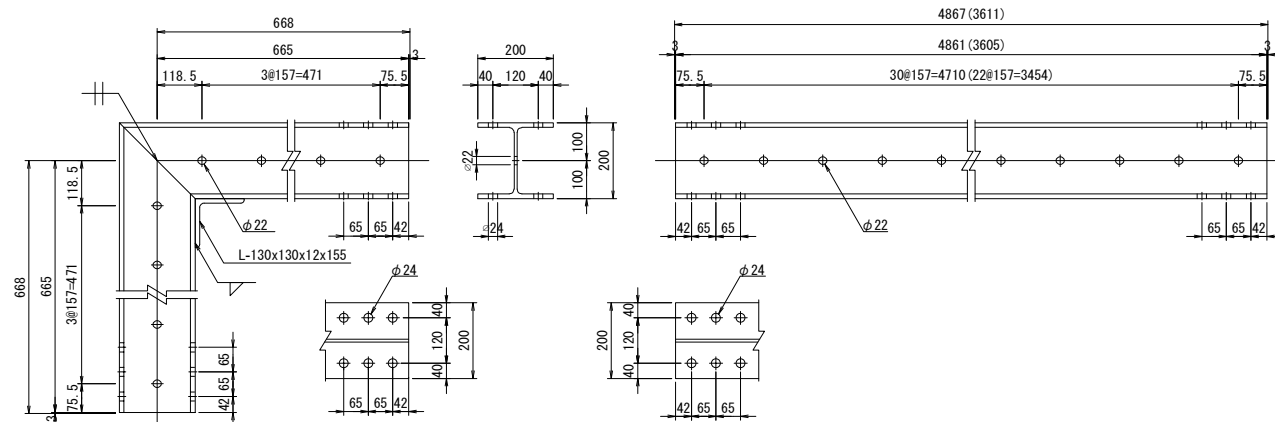
注記) 交差道路については、別途標準断面図(道路設計)より反映。

館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	浮戸川橋(上り線)		
	P1橋脚 構造物掘削図 特殊部C(その1)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所		

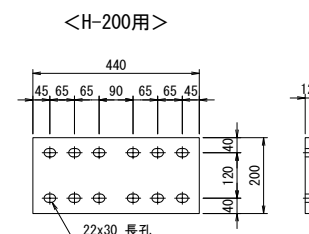
ライナープレート構成図 S=1:150



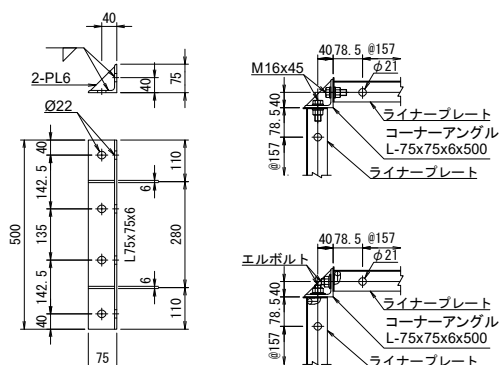
補強リング(参考図) S=1:20



補強リング継手板 S=1:20



コーナーアングル(参考図) S=1:20



呼称	P1	P2
P-10	1570	9@157=1413
P-9	1413	8@157=1256
P-7	1099	6@157=942
P-5	785	4@157=628

材料表

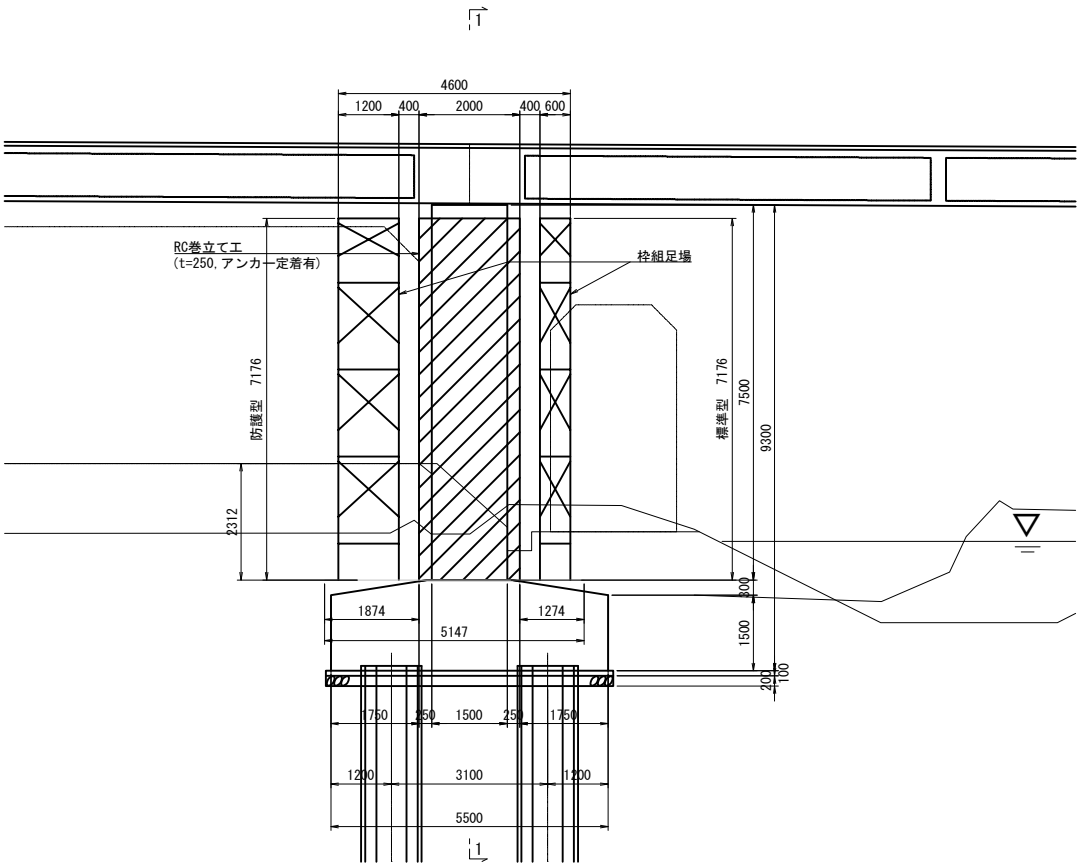
品名	サイズ (mm)	単位質量 (kg)	数量	質量 (kg)	備考
ライナープレート	P-10 t=2.7	26.0	72	1872.0	黒皮品
ライナープレート	P-9 t=2.7	23.6	8	188.8	黒皮品
ライナープレート	P-7 t=2.7	18.6	8	148.8	黒皮品
ライナープレート	P-5 t=2.7	13.7	16	219.2	黒皮品
組立ボルト	M16x30 (4.6)	0.137	584	80.0	黒皮品
組立ボルト	M16x45 (8.8 リング 用)	0.158	928	146.6	黒皮品
組立ボルト	M16x45 (8.8 CA用)	0.158	128	20.2	黒皮品
コーナースタングル	L75x75x6x500	3.63	16	58.1	黒皮品 PL-6付
補強リング	H200×200×8×12×4861	243.0	8	1944.0	黒皮品
補強リング	H200×200×8×12×3605	180.0	24	4320.0	黒皮品
補強リング	H200×200×8×12×1330	70.6	16	1129.6	黒皮品 L130付
継手板	PL200x12x440 (SM490)	8.29	96	795.8	黒皮品
継手ボルト	M20x50 (8.8)	0.275	1152	316.8	黒皮品
ロックワッシャー	M20用	—	576	—	黒皮品
支保工					
縦梁	H200×200×8×12×2000	110.0	2	220.0	リース材
切梁	H200×200×8×12×4347	239.1	2	478.2	リース材
合計				11938.1	kg

※継手板は(SM490)材を適用する。

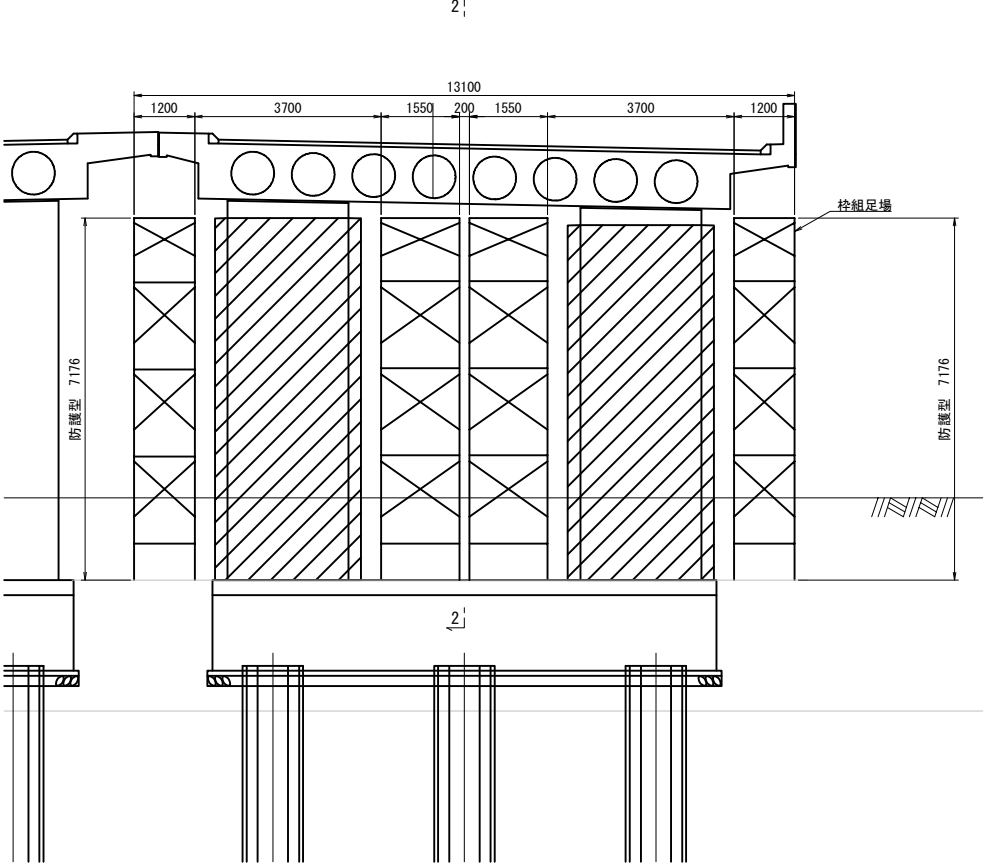
館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類		浮戸川橋（より線）	
		P1橋脚 構造物箇所別 特殊部C(その2)	
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名		株式会社 建設技術研究所	
施工会社名			
事務所名		東日本高速道路株式会社 関東支所 市 原 管 理 事 務 所	

注記) 余掘り量は、土留中心から20cmを標準とする。

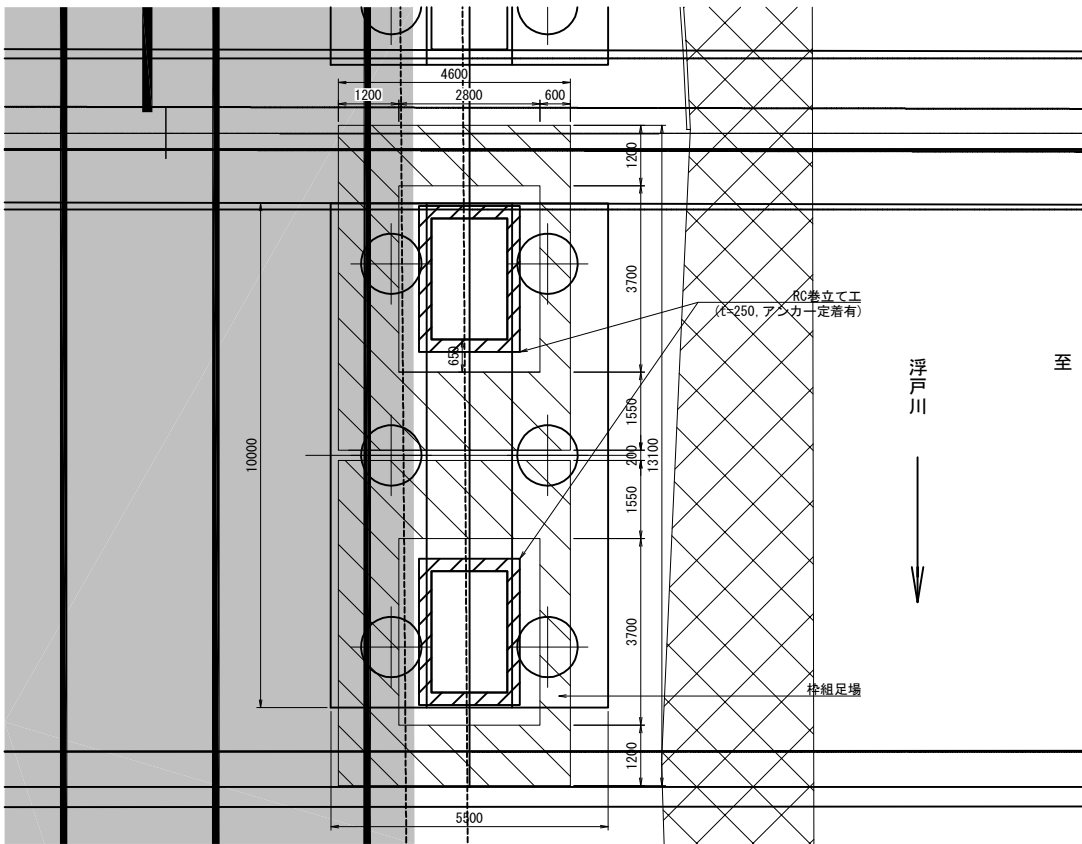
側面図
2 - 2



正面図
1 - 1



平面図



至 姉崎袖ヶ浦IC

浮戸川

至 木更津北IC

注記) 交差道路については、別途標準断面図(道路設計)より反映。

館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	浮戸川橋(上り線)		
	P1橋脚 足場工図 (参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

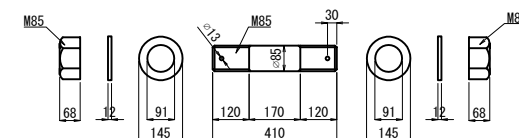
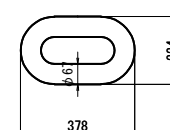
上部工付ブラケット



- 下部工付ブラケット

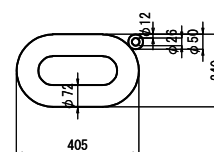


- 【7リンクワイド】

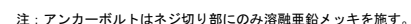


- 製作数：2組

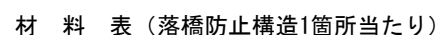
- * ピンの防錆仕様はHDZT49する。



- (上部工)



a部詳細図(参考)



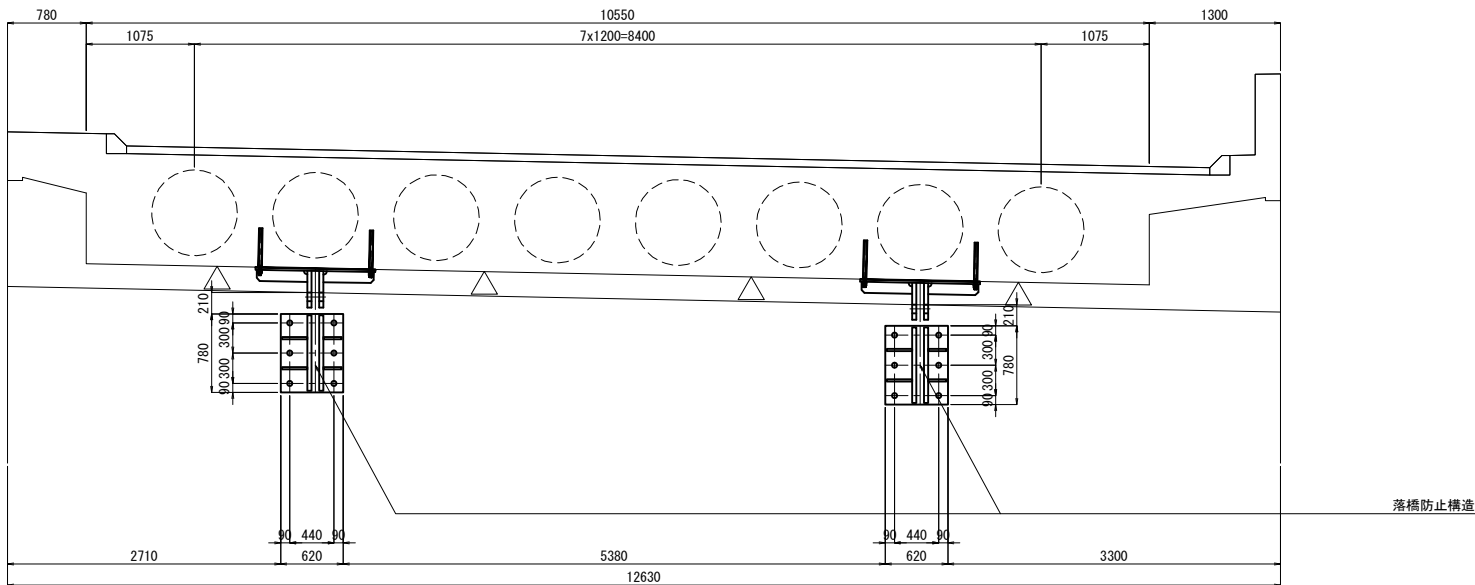
注記)

1. 特記なき鋼材の材質は全てSM490Bとする。
2. 部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げるとする。
3. 許容量は、JIS H8641 HZT77とする。
- ただし、ボルト・ナット類はHZT49とする。
4. アンカーボルトを配する際には鉄筋探索を行い、既設部の鉄筋に干渉しないように注意すること。
5. 施工にあたり現場実測を行い寸法変更の際、必要であれば応付計算を行い、安全性を確保すること。
6. 「F.P.」の表記のある箇所は完全溶込み溶接を用いる。
7. 既設部材の部材取付面は、下地処理を行うこと。

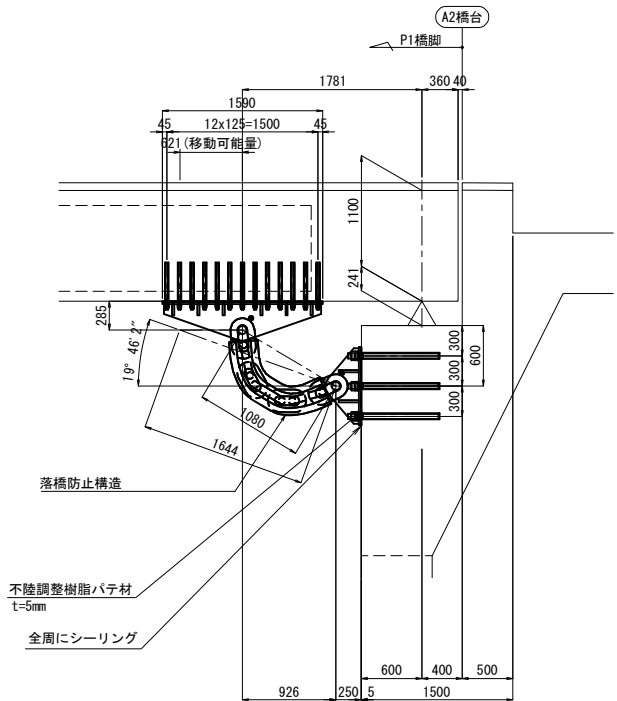
館山自動車道 大島居高架橋耐震補強工事		
図面の種類	浮戸川橋(上り線)	
縮 尺	A1橋台 落橋防止構造 C1(Ⅰ) 構造図 (その2)	
図 示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所	
施工会社名		
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所	

[配置図]

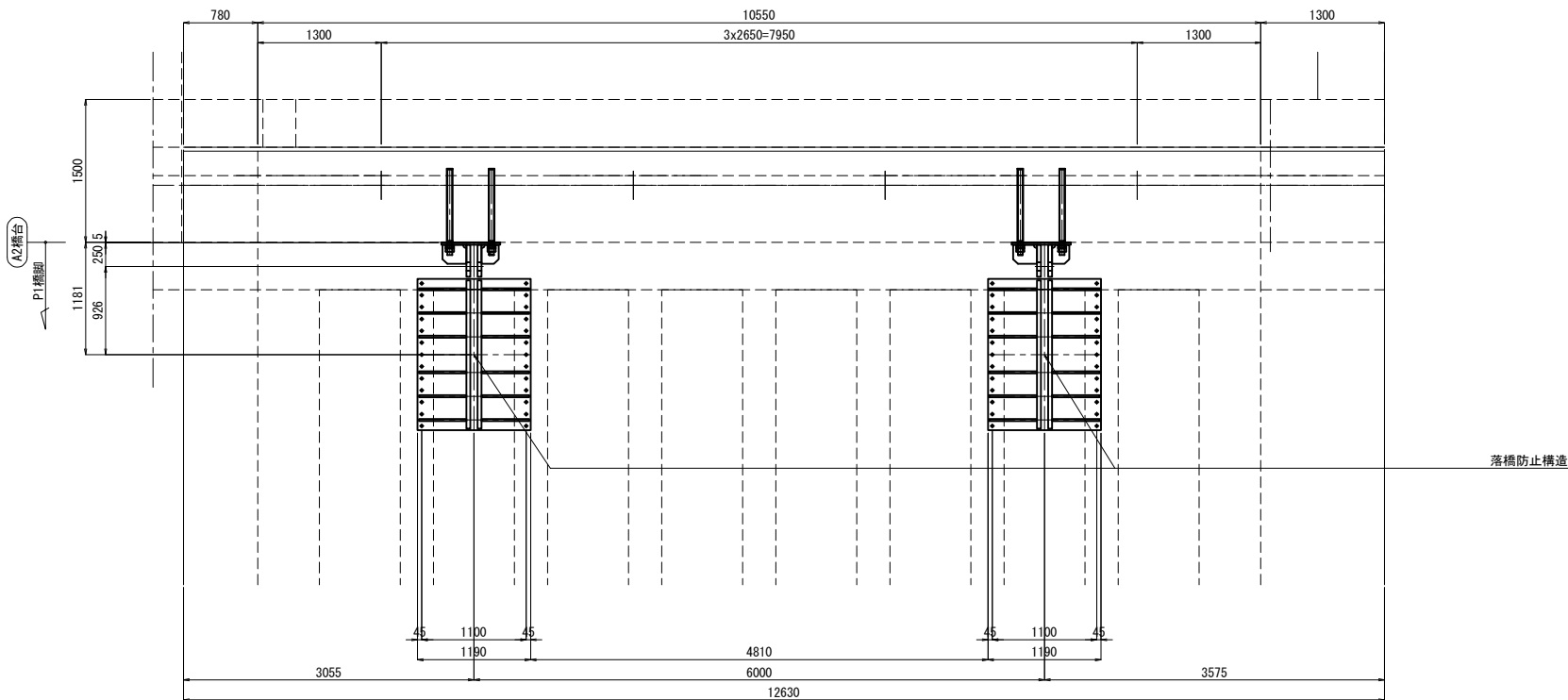
断面図



側面図



平面図



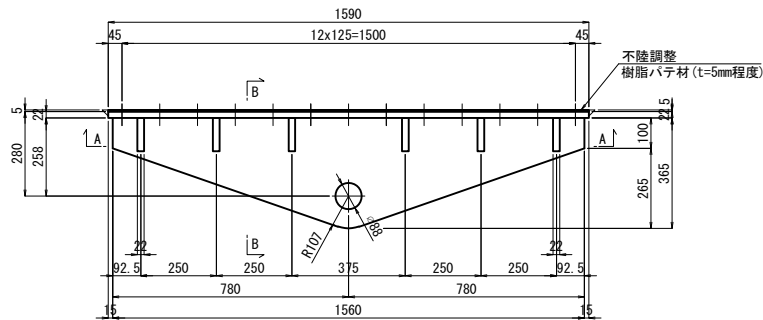
死荷重反力	1840kN
設計水平力	2760kN
1本当たりの設計地震力	1380kN
1本当たりの設計引張力	1469kN
設計移動量	623mm

- 注記)
1. 図中詳細寸法は、足場架設後現地実測の上決定のこと。
 2. 上下部工側は鉄筋探査等を行い、既設鉄筋を切断しないように留意すること。
 3. 既設躯体の部材取付面は、下地処理を行うこと。
 4. アンカーボルト定着長は既設躯体より15D (D:アンカー径) 以上を確保すること。

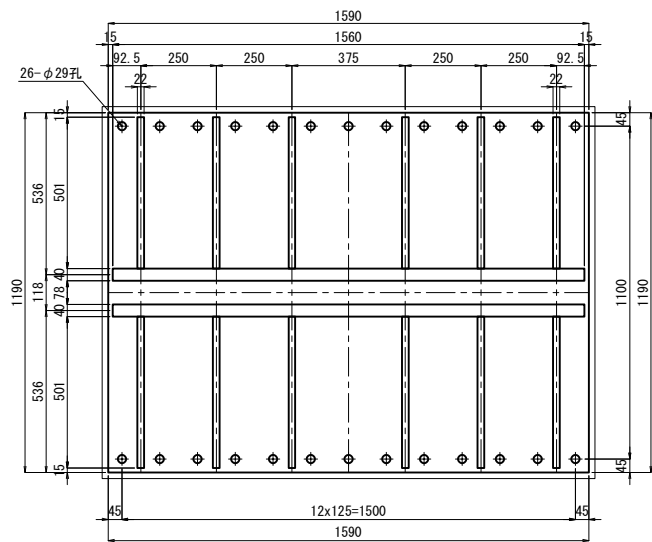
館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	浮戸川橋(上り線)		
	A2橋台 落橋防止構造 C1(K) 構造図(その1)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所		

[取付概要図]

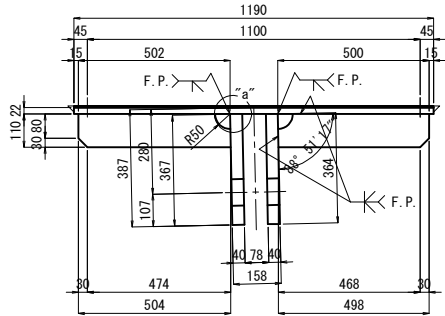
上部工付ブラケット



A - A



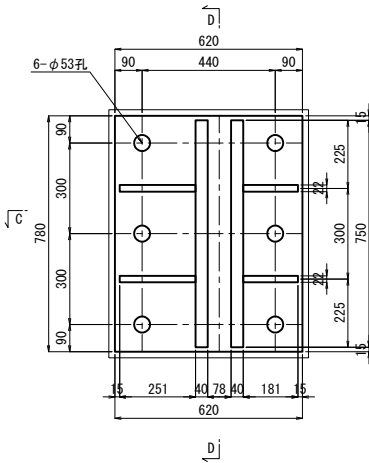
B - B



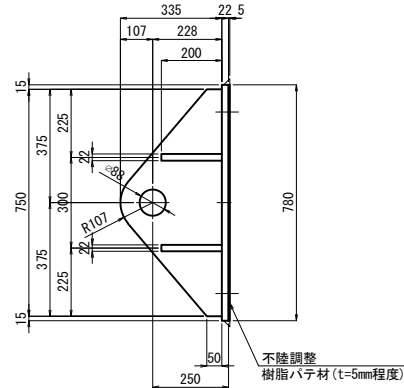
製作数：2基

- 1-Base. Pl 1190×22×1590
- 1-Top. Pl 367×40×1560
- 1-Top. Pl 364×40×1560
- 6-Rib. Pl 110×22×504
- 6-Rib. Pl 110×22×500
- 26-Anc Bolt D25×455 (SD345)
- 26-1種 Nut M24 (SS400)
- 26-3種 Nut M24 (SS400)
- 26-Washer M24 (SS400)

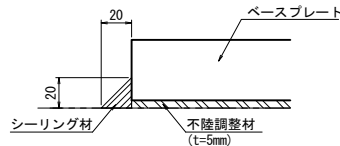
下部工付ブラケット



D - D



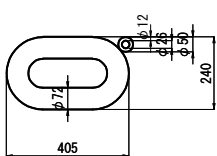
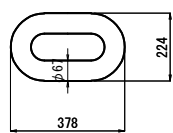
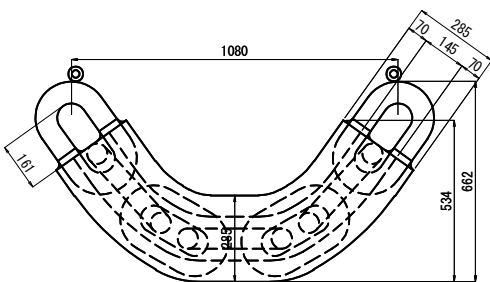
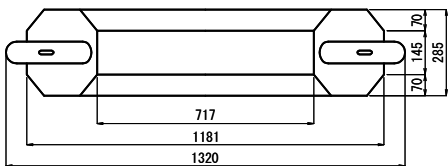
シーリング詳細図 S=1:5



製作数：2基

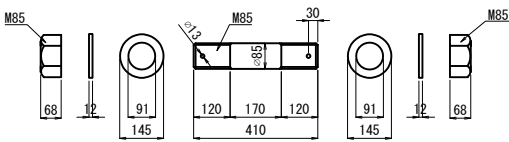
- 1-Base. Pl 620×22×780
- 2-Top. Pl 335×40×750
- 2-Rib. Pl 251×22×200
- 2-Rib. Pl 181×22×200
- 6-Anc Bolt D51×900 (SD345)
- 6-1種 Nut M48 (SS400)
- 6-3種 Nut M48 (SS400)
- 6-Washer M48 (SS400)

ブロック型ゴム被覆チェーン (参考図)
[7リンクワイド]



- *1 調整リングの溶接は全周隅肉溶接とする。
- *2 端部リンクの防錆仕様はHDZT77とする。
- *3 製品計算重量：248.9 kgf

ピン詳細

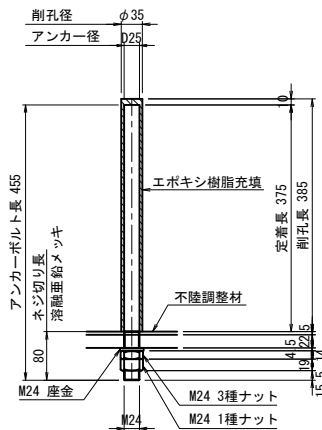


製作数：2組

- 2-R. B φ85×410 (SCM435)
- 4-NUT M85 (1種) (SS400)
- 4-WASHER M85 (SS400)
- 4-割ピンφ13×130 (SUS304)

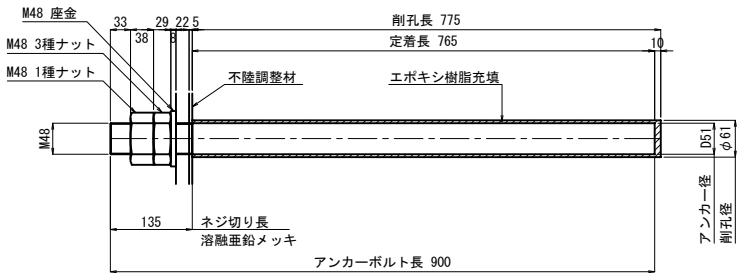
* ピンの防錆仕様はHDZT49する。

アンカーボルト詳細図 S=1:12.5
(上部工)



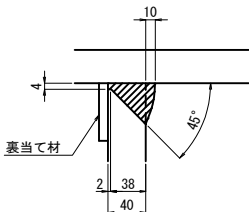
注：アンカーボルトはネジ切り部にのみ溶融亜鉛メッキを施す。

アンカーボルト詳細図 S=1:12.5
(下部工)



注：アンカーボルトはネジ切り部にのみ溶融亜鉛メッキを施す。

a部詳細図(参考)



材 料 表 (落橋防止構造1箇所当たり)

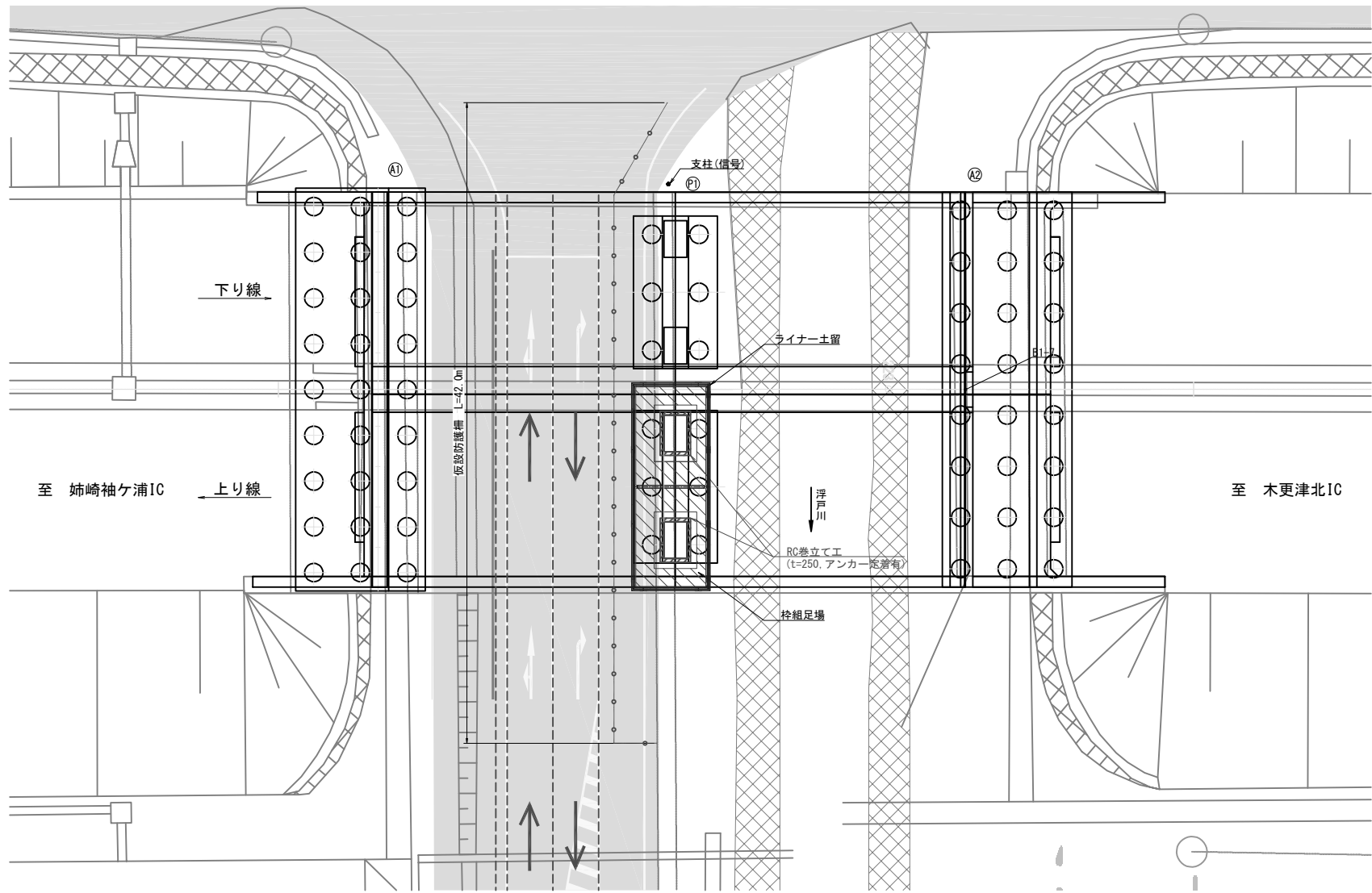
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
ブロック型ゴム被覆チェーン	1710kN	本	1	7リンクワイド
丸鋼(R. B)	φ85×410	個	2	SCM435
ナット	M85 1種	個	4	SS400
座金	M85	枚	4	SS400
割ピン	φ13×130	個	4	SUS304

注記)

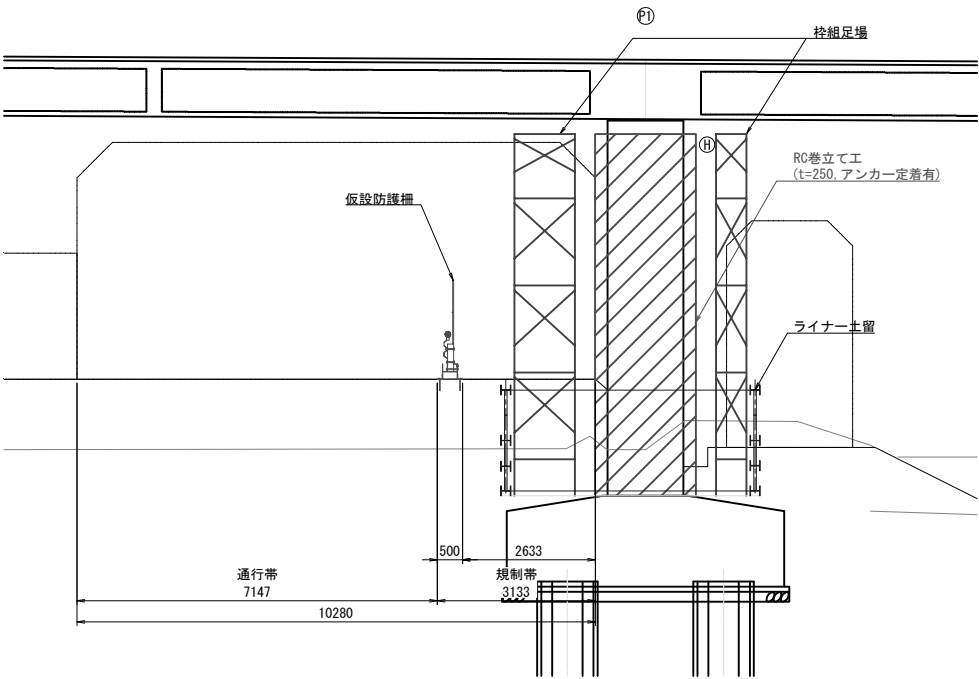
- 特記なき鋼材の材質は全てSM490YBとする。
- 部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
付着量は、JIS H8641 HDZT77とする。
ただし、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
- アンカーボルトを配置する際には鉄筋探索を行い、
既設部の鉄筋に干渉しないように注意すること。
- 施工に先立ち現場実測を行い寸法変更の際、必要であれば応力計算を行い、安全性を確保すること。
- 「F. P.」の表記のある箇所は完全溶込み溶接を用いる。
- 既設躯体の部材取付面は、下地処理を行うこと。

館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	浮戸川橋(上り線)		
	A2橋台 落橋防止構造 C1(K) 構造図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

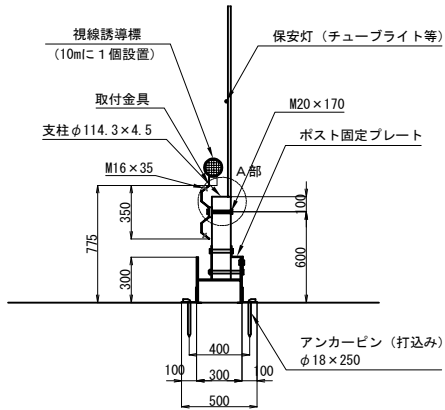
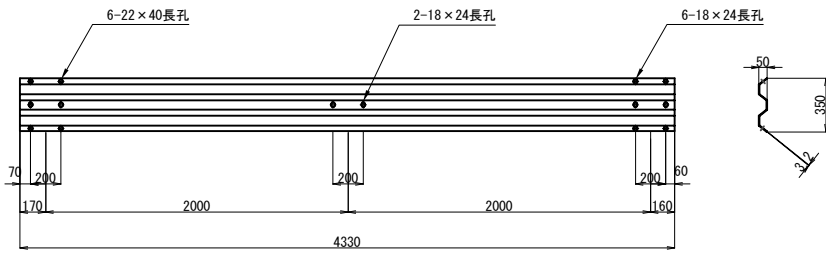
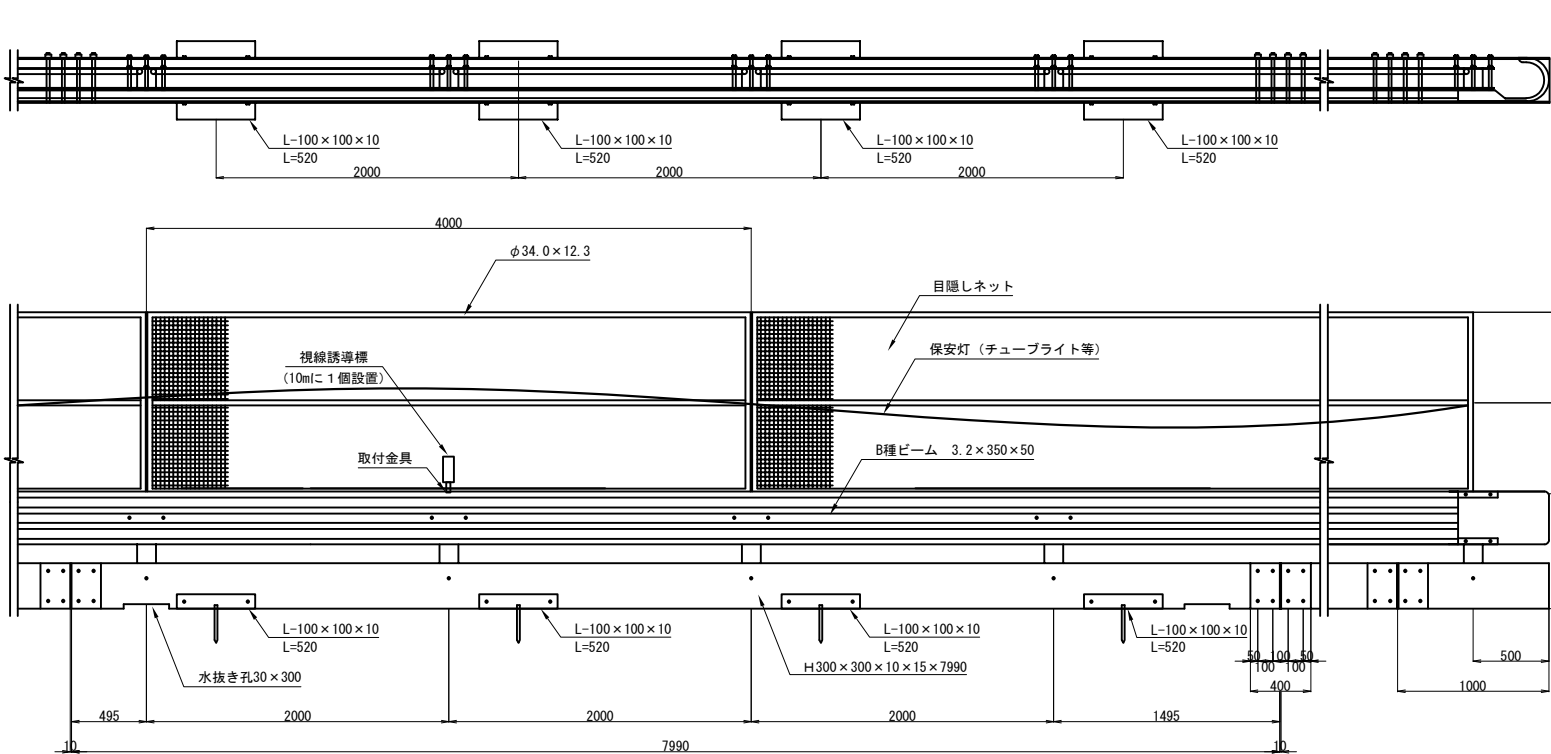
平面図 S=1:400



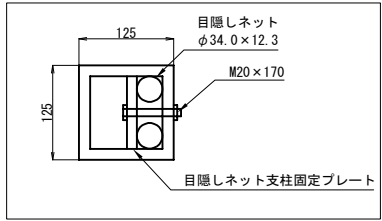
側面図 S=1:150



仮設防護柵詳細図(参考図) S=1:50



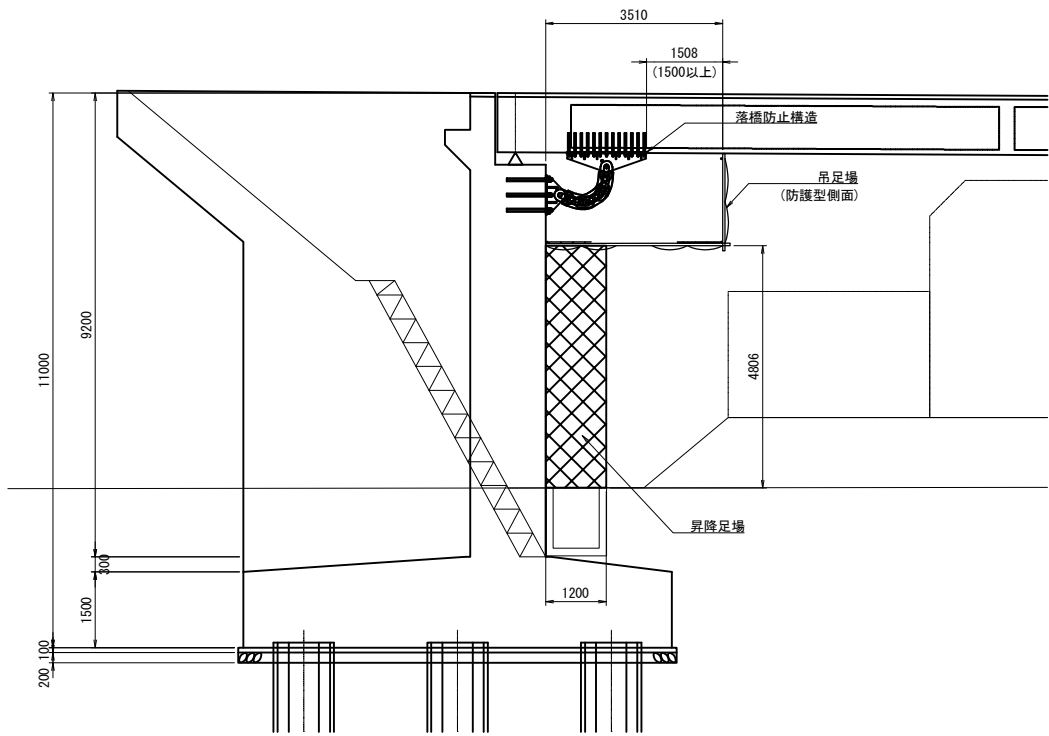
A部詳細図 S=1:10



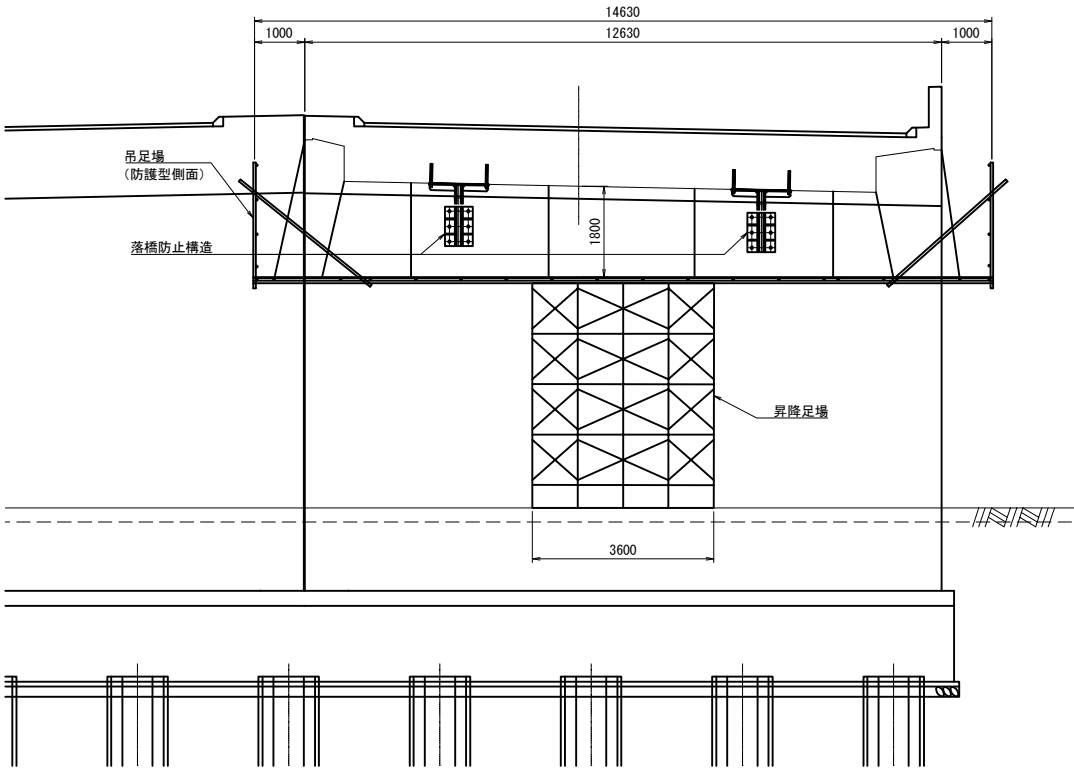
注記) 交差道路については、別途標準断面図(道路設計)より反映。

館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	浮戸川橋(上り線) 仮設防護柵工C		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	市原管理事務所		

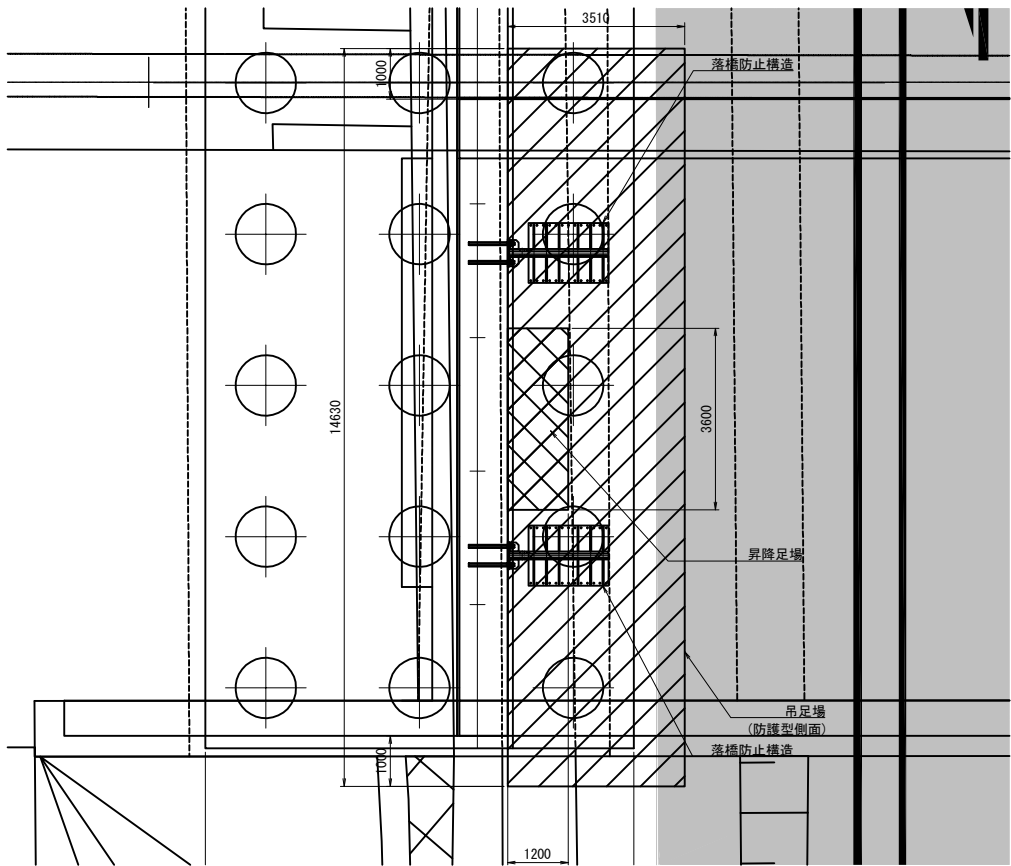
側面図



正面図



平面図



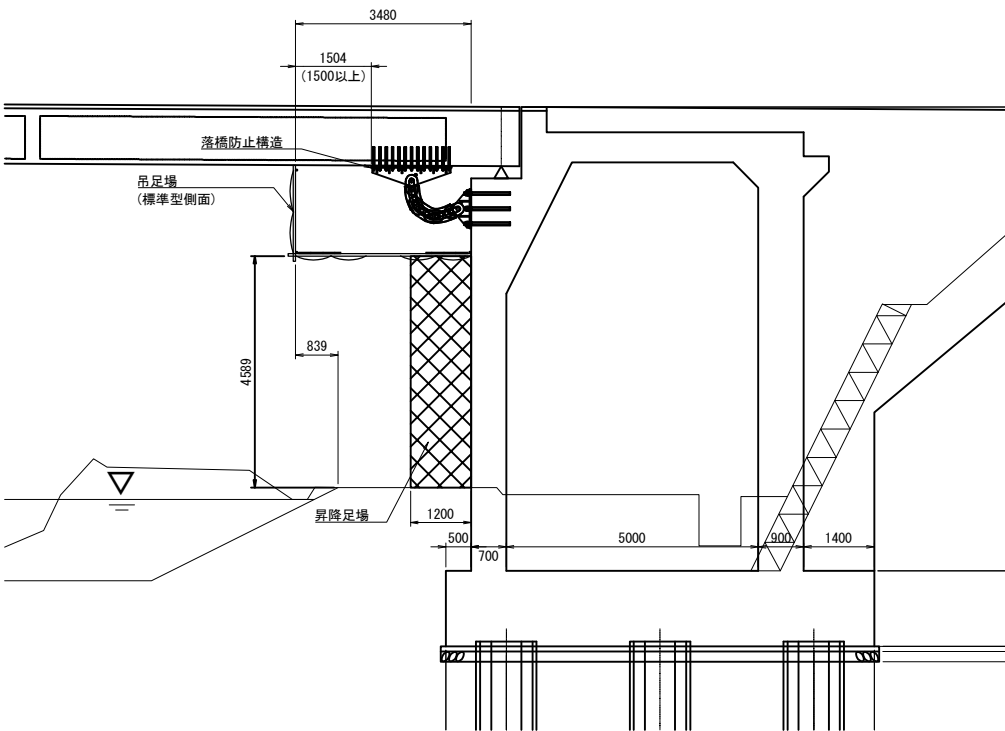
至 姉崎袖ヶ浦IC

至 木更津北IC

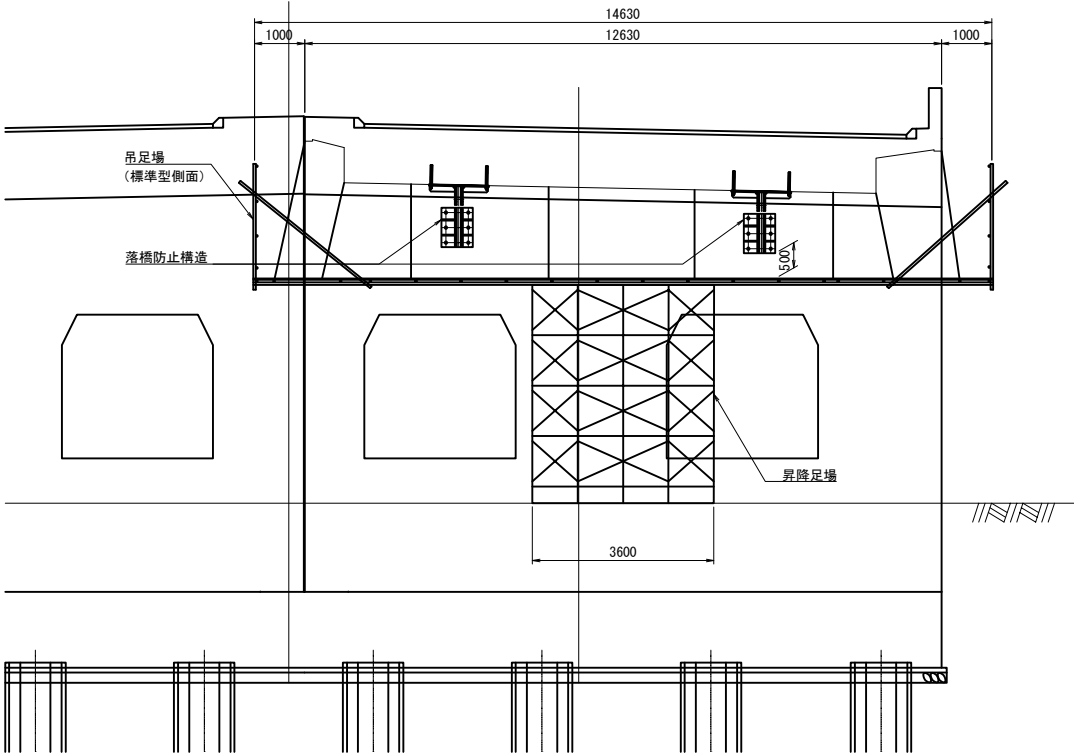
注記) 交差道路については、別途標準断面図(道路設計)より反映。

館山自動車道 大島居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	浮戸川橋(上り線)		
	A1橋台 足場工図 (参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

側面図

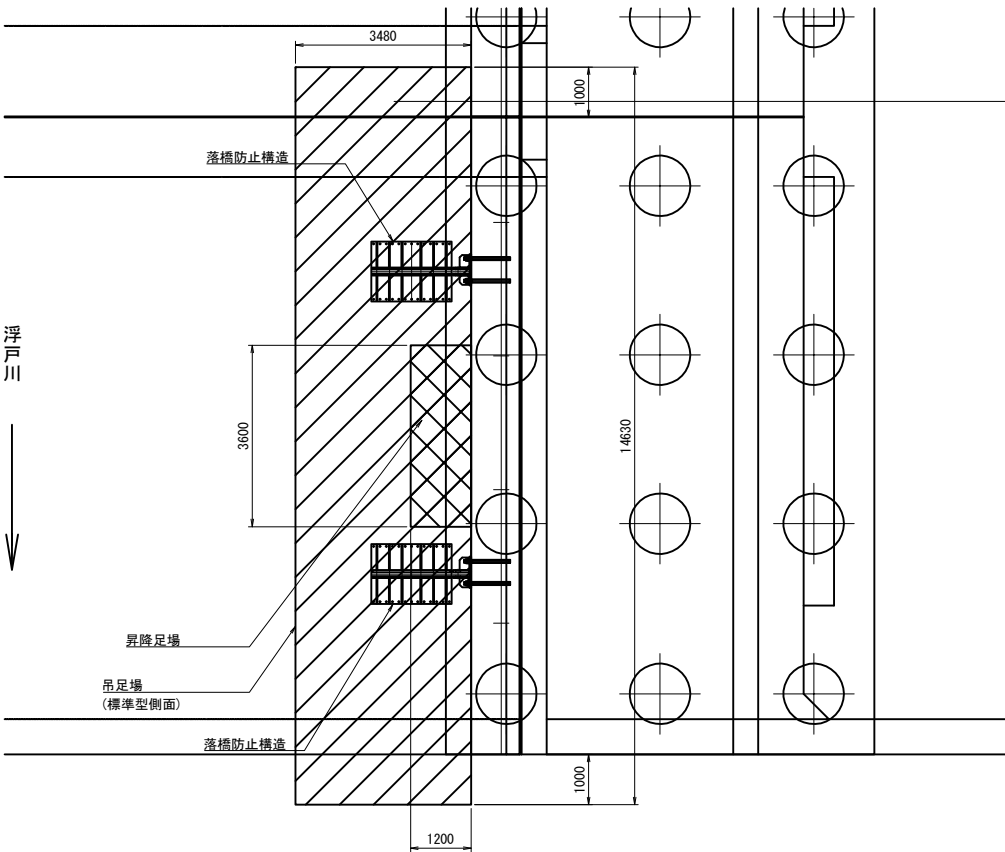


正面図



平面図

至 姉崎袖ヶ浦IC

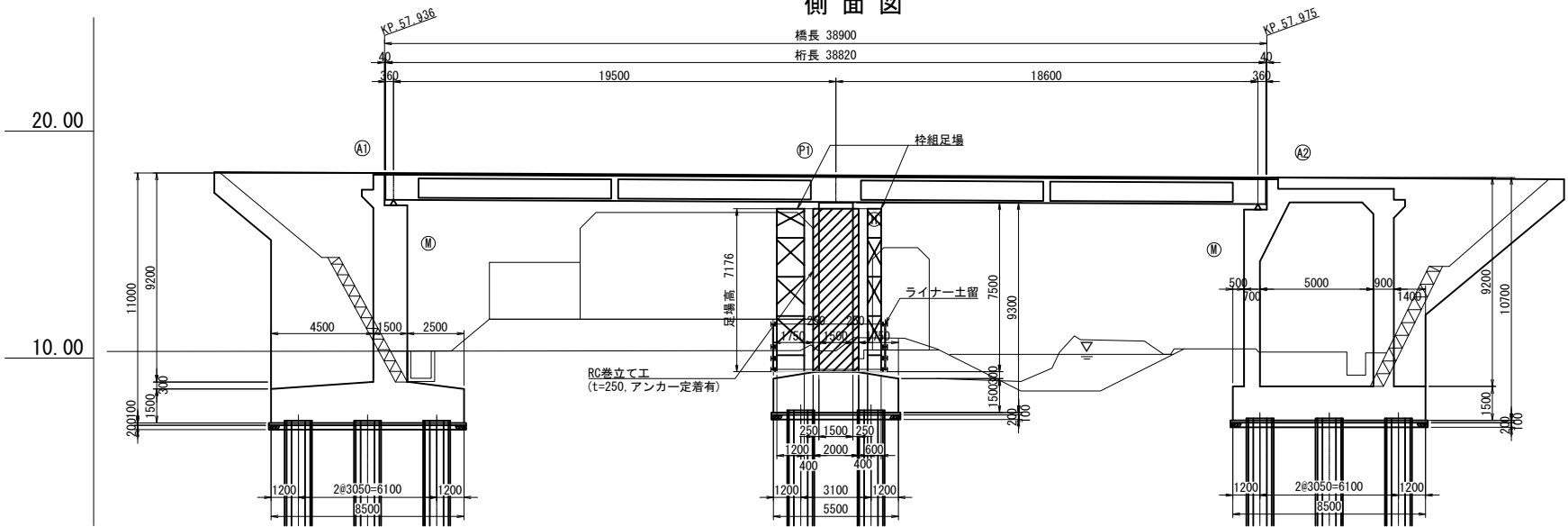


至 木更津北IC

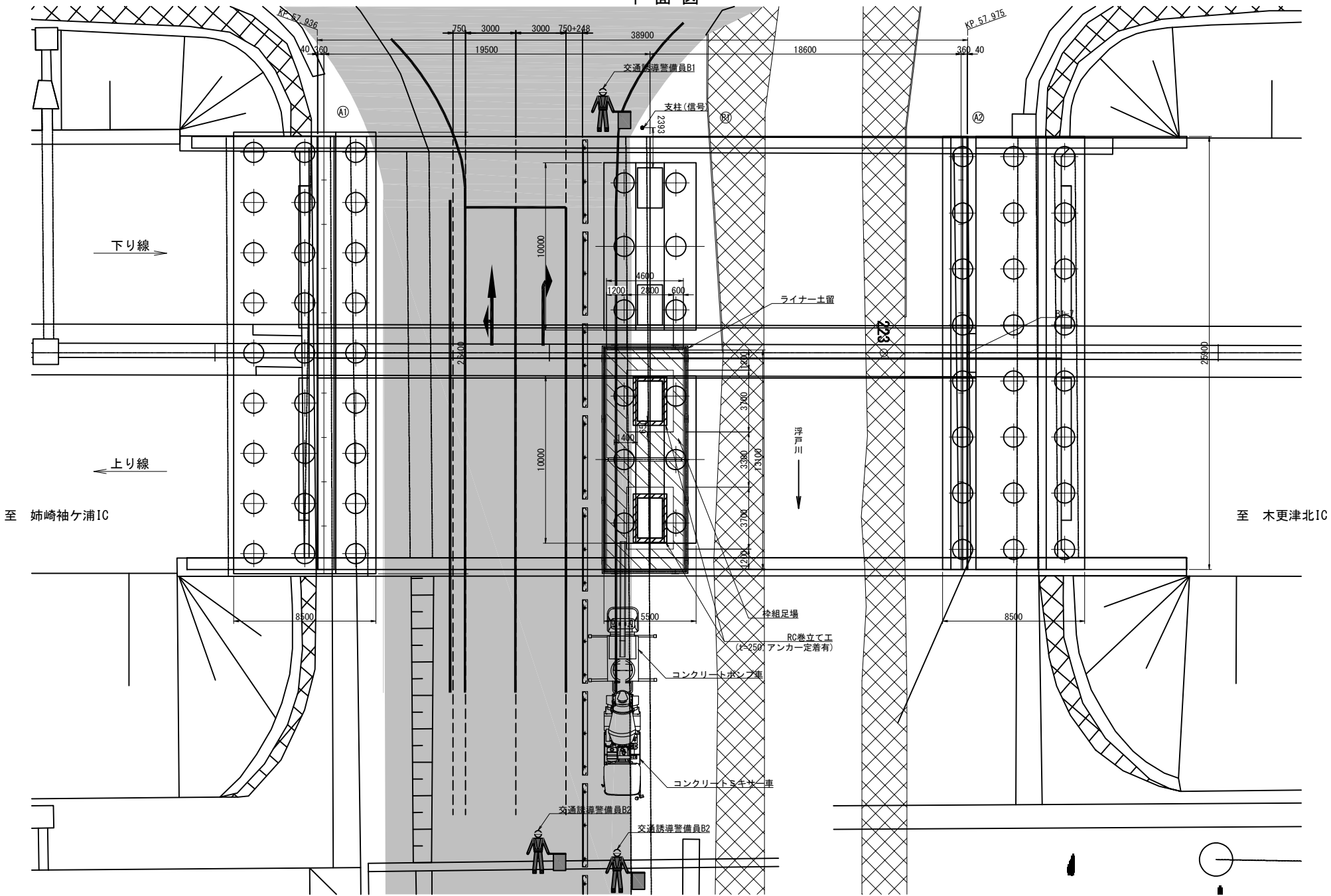
注記) 交差道路については、別途標準断面図(道路設計)より反映。

館山自動車道 大島居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	浮戸川橋(上り線)		
	A2橋台 足場工図 (参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

側面図



平面図



橋脚補強施工手順

STEP1 付帯工撤去工・ライナー設置工・床掘工



STEP2 足場工設置



STEP3 RC巻立て施工



STEP4 足場工撤去



STEP5 付帯工復旧工・ライナー撤去工・埋戻し工

主要重機

■STEP1
[付帯工撤去工・ライナー設置工・床掘工]
・ライナー土留
・ミニバックホウ
・クローラキャリア
・ダンプトラック

■STEP2
[足場工]: 人力施工
・桟組足場

■STEP3
[橋脚補強工]: RC巻立て工
・ミニバックホウ(鉄筋組立補助)
・コンクリートポンプ車
・コンクリートミキサー車

■STEP4
[足場工]: 人力施工
・桟組足場

■STEP5
[付帯工復旧工・ライナー撤去工・埋戻し工]
・ミニバックホウ
・クローラキャリア
・ダンプトラック

注記) 交差道路については、別途標準断面図(道路設計)より反映。

館山自動車道 大島居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	浮戸川橋(上り線)		
	コンクリート打設計画図(参考図)(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

正面図
(P1) 橋脚

資材搬入時

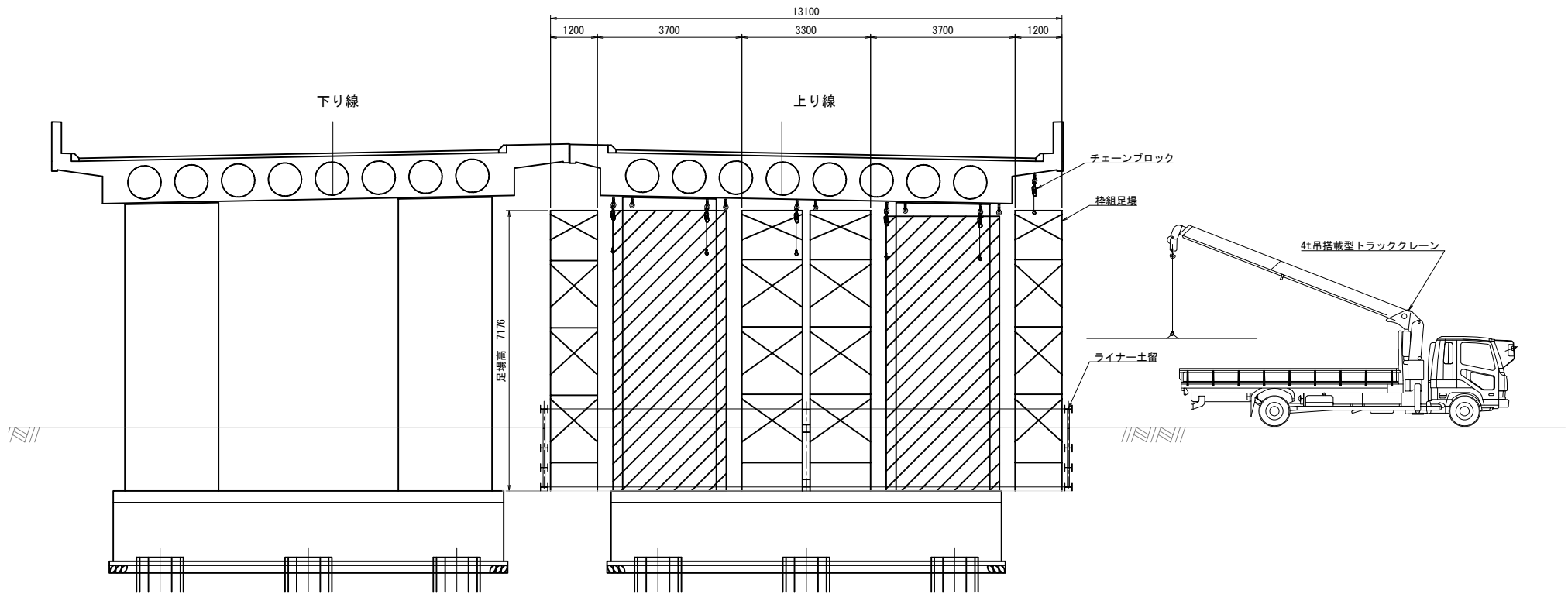
■P1橋脚上り線 施工時

4t吊搭載型トラッククレーン
吊重量：0.07t
作業半径：7.5m(3段ブーム)
定格重量：0.48t(3段ブーム)
0.07t < 0.48t・・・OK

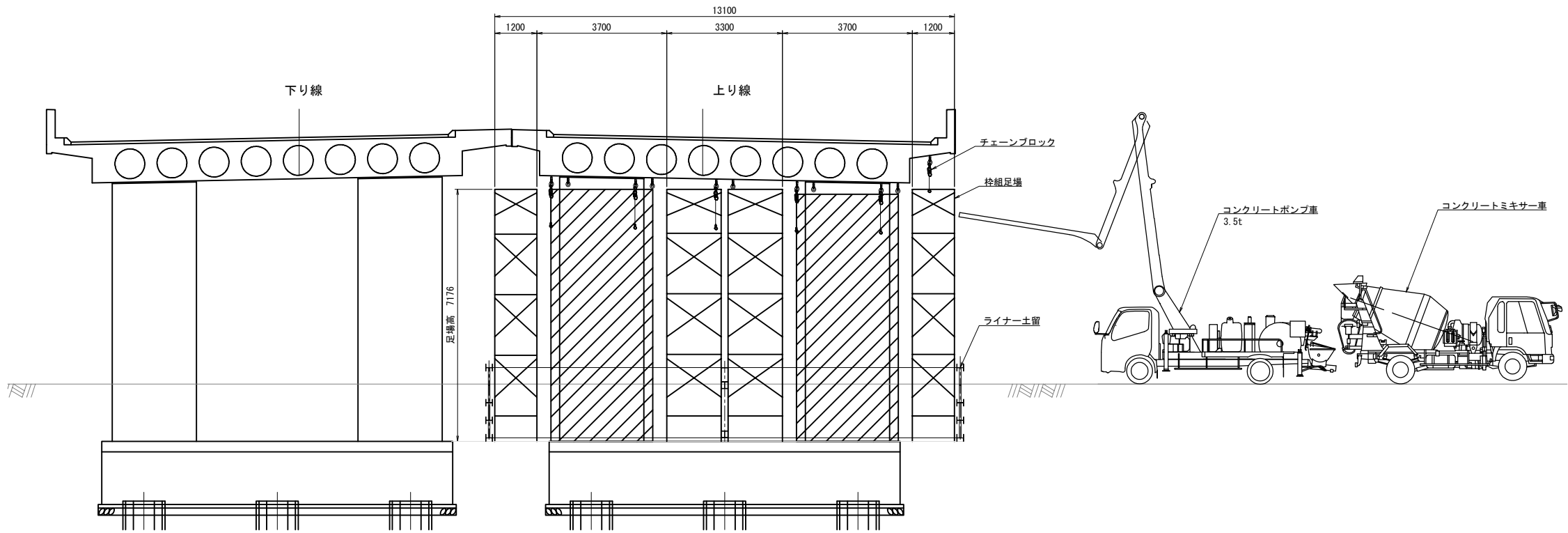
4t吊搭載型トラッククレーン アウトリガ不使用 定格総荷重(t)	
(m)	3段ブーム
作業半径	
5.5	0.75
6.0	0.66
7.0	0.54
7.5	0.48

施工順序

- 床版下面にコンクリートアンカーを打ち込み、アイボルト・シャックルを介してチェーンブロックを配置する。
- 上り線橋脚側面より、4t吊搭載型トラッククレーンにて資材搬入。最大資材は鉄筋D51。(長さ4.4m・重量0.07t)
- 資材をチェーンブロックに盛り替える。
- 鉄筋組立位置まで横引きにて移動する。
- チェーンブロックで、高さを調整しながら設置位置まで鉄筋を移動させ、結束線および溶接にて固定する。

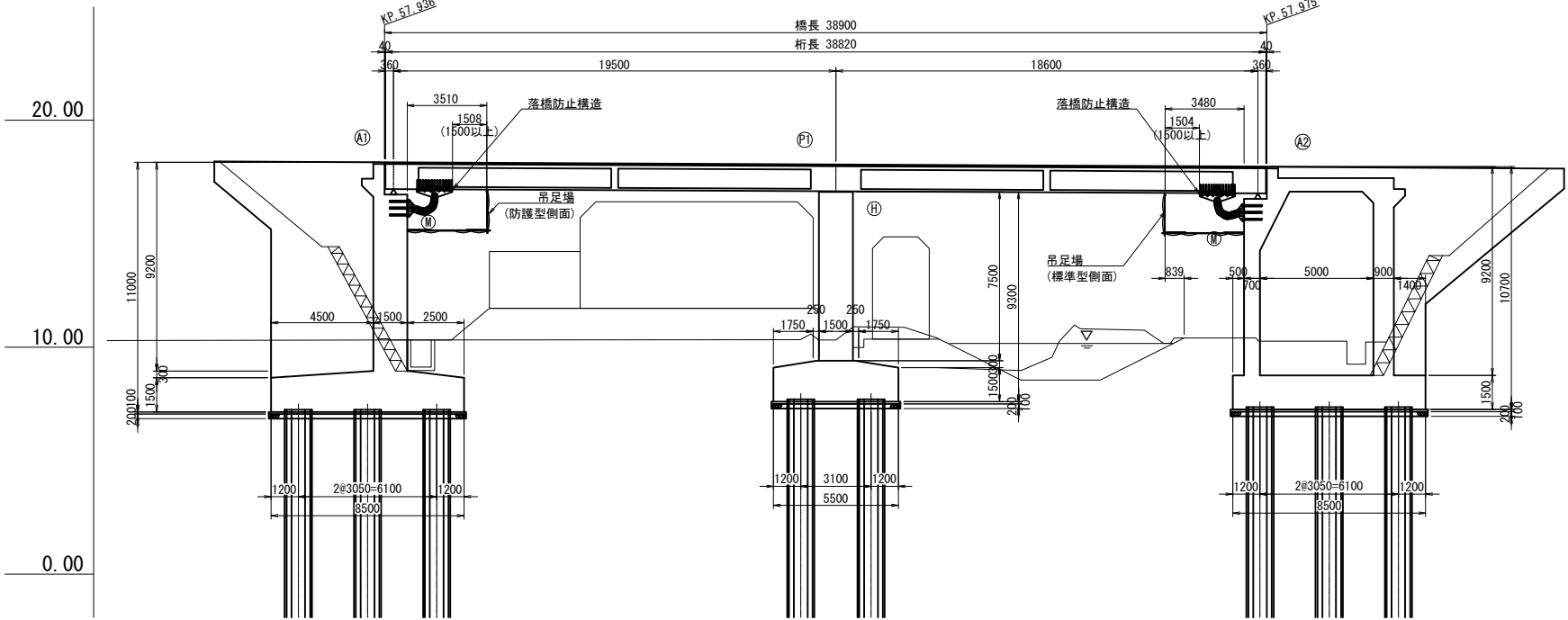


コンクリート打設時

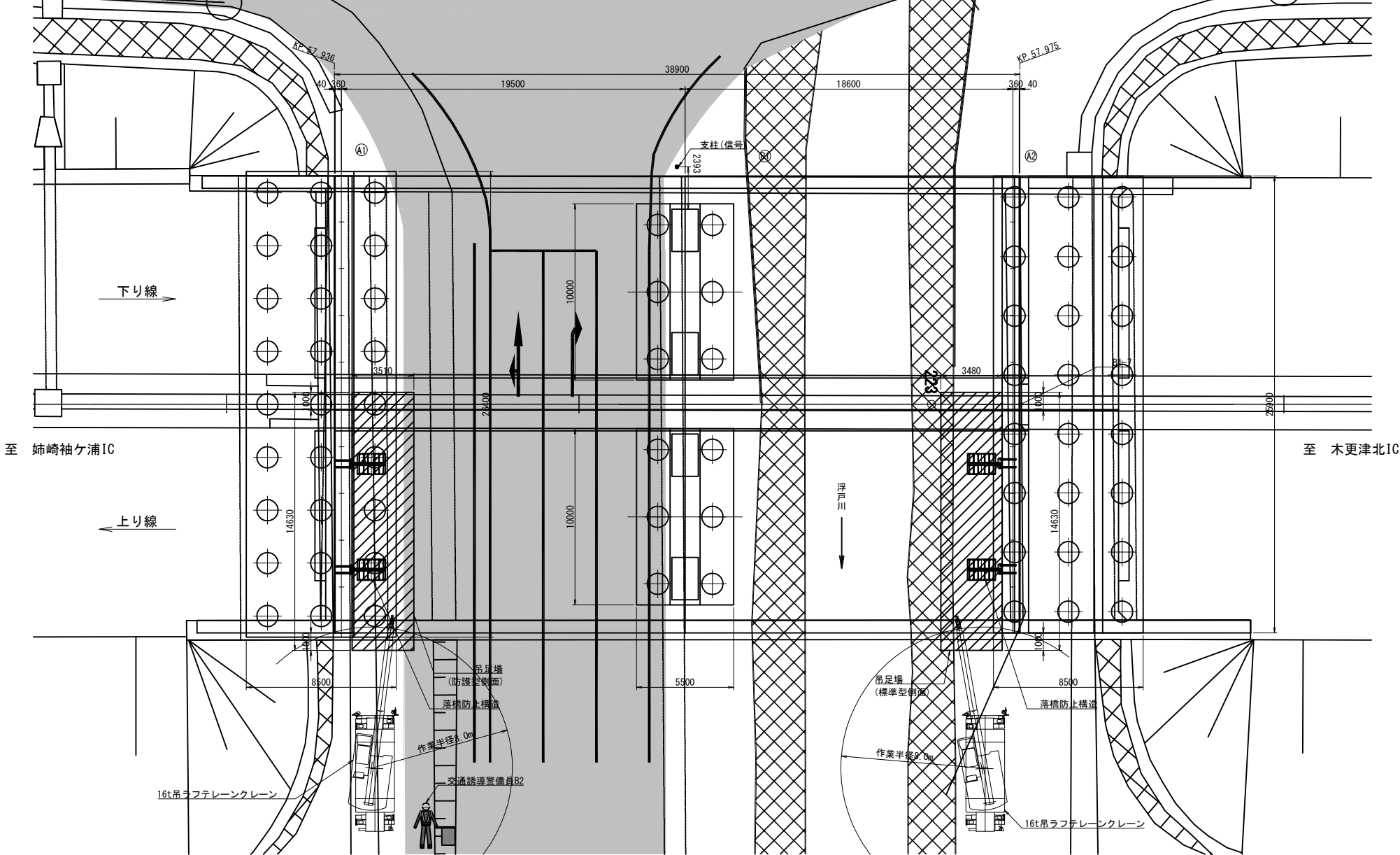


館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	浮戸川橋(上り線) コンクリート打設計画図(参考図)(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

側面図



平面図



維持修繕施工手順

STEP1 足場工設置



STEP2 落橋防止構造設置



STEP3 足場工撤去

主要重機

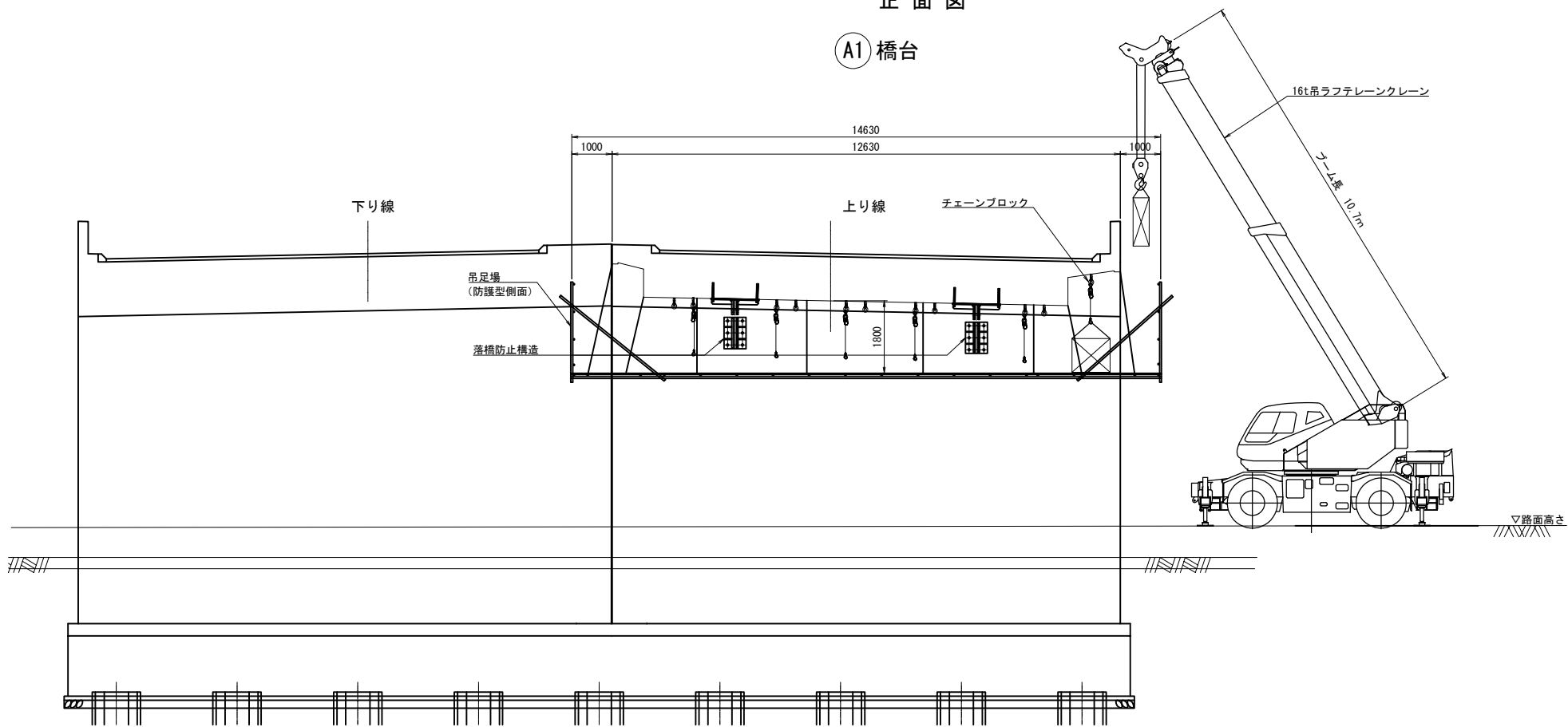
- STEP1
[足場工]
・吊足場 (A1橋台・A2橋台)
・4 t 吊搭載型トラッククレーン (資材搬入)
- STEP2
[落橋防止構造設置工]
・16t吊ラフテレーンクレーン (資材搬入)
- STEP3
[足場撤去工]
・吊足場 (A1橋台・A2橋台)
・4 t 吊搭載型トラッククレーン (資材搬出)

注記) 交差道路については、別途標準断面図(道路設計)より反映。

館山自動車道 大島居高架橋耐震補強工事				
図面の種類	浮戸川橋(上り線)			
	落橋防止資材搬入計画図(参考図)(その1)			
縮尺	図示	図面番号	/	
設計会社名	株式会社 建設技術研究所			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社			
	市原管理事務所			

正面図

① A1 橋台



■A1橋台上り線 施工時

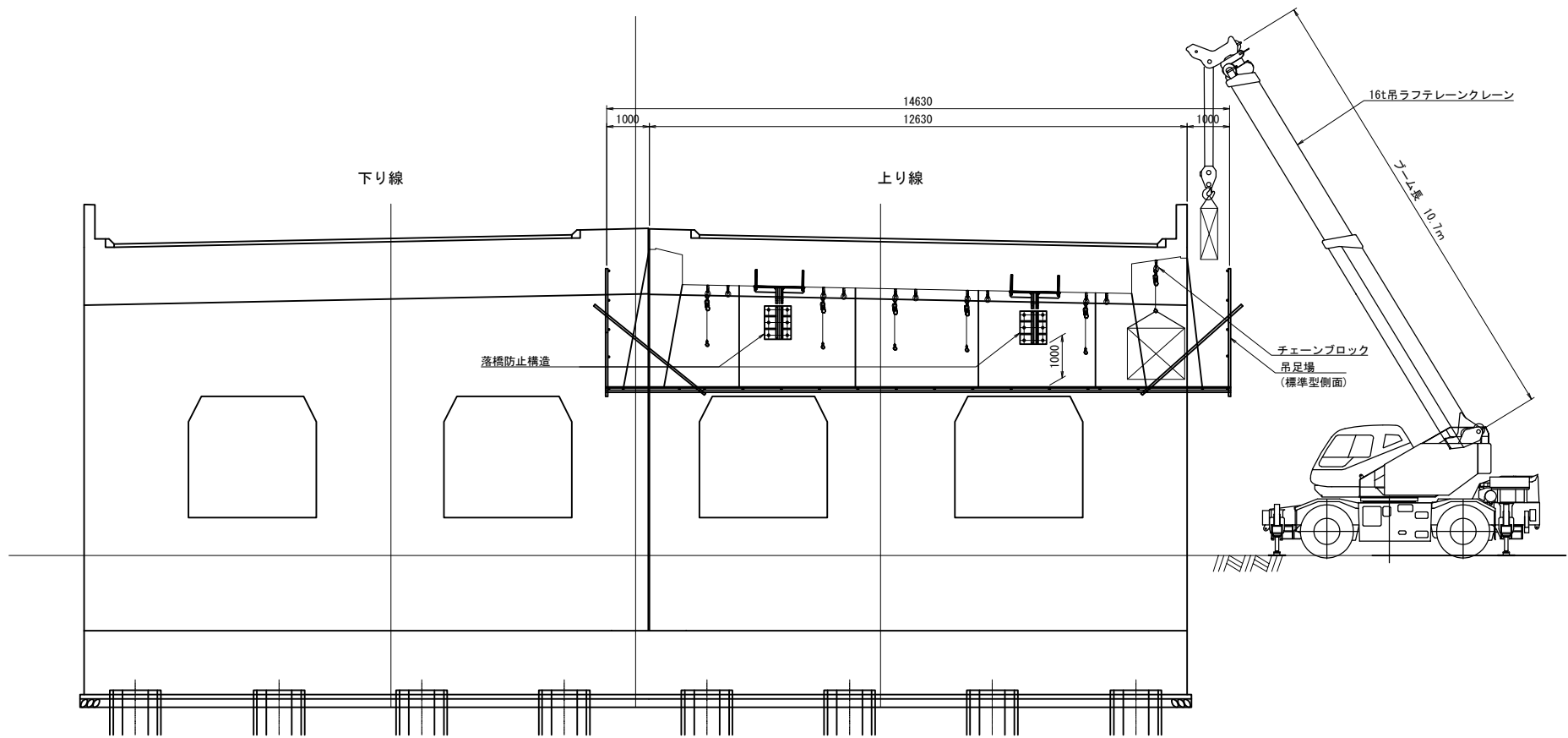
16t吊ラフテレーンクレーン	
資材重量	: 0.76t
フック重量	: 0.14t
吊重量	: 0.90t
作業半径	: 8.0m (10.7mブーム)
定格重量	: 1.00t (10.7mブーム)
0.90t<1.00t・・・OK	

TADANO GR160N アウトリガ不使用 定格総荷重 (t)	
ブーム	10.7mブーム
作業半径 (m)	
5.5	1.90
6.0	1.70
7.0	1.30
8.0	1.00

施工順序

- 床版下面にコンクリートアンカーを打ち込み、アイボルト・シャックルを介してチェーンブロックを配置する。
- 橋台側面より、16t吊ラフテレーンクレーンにて資材搬入。
最大資材は、上部工付ブラケット。(重量0.76t)
- 資材を足場上に荷下ろしチェーンブロックに盛り替える。
- 各ブラケット位置まで横引きにて移動し、チェーンブロックにて直上に吊り上げる。
- 2本以上のチェーンブロックで、長さを調整しながら設置位置まで資材を移動させ、アンカーボルト突出部にブラケットを設置し、ナットを締めこんで固定する。

② A2 橋台



■A2橋台上り線 施工時

16t吊ラフテレーンクレーン	
資材重量	: 0.76t
フック重量	: 0.14t
吊重量	: 0.74t
作業半径	: 8.0m (10.7mブーム)
定格重量	: 1.00t (10.7mブーム)
0.74t<1.00t・・・OK	

TADANO GR160N アウトリガ不使用 定格総荷重 (t)	
ブーム	10.7mブーム
作業半径 (m)	
5.5	1.90
6.0	1.70
7.0	1.30
8.0	1.00

施工順序

- 床版下面にコンクリートアンカーを打ち込み、アイボルト・シャックルを介してチェーンブロックを配置する。
- 橋台側面より、16t吊ラフテレーンクレーンにて資材搬入。
最大資材は、上部工付ブラケット。(重量0.76t)
- 資材を足場上に荷下ろしチェーンブロックに盛り替える。
- 各ブラケット位置まで横引きにて移動し、チェーンブロックにて直上に吊り上げる。
- 2本以上のチェーンブロックで、長さを調整しながら設置位置まで資材を移動させ、アンカーボルト突出部にブラケットを設置し、ナットを締めこんで固定する。

館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	浮戸川橋(上り線)		
	落橋防止資材搬入計画図(参考図)(その2)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所		